

京都北山撮影紀行 ⑨

さん や しょう よう 山野逍遙

——残雪と光の印象——

撮影 北川 裕久



春の背尾根(青谷峠付近)

次々と残雪に写し出される

樹木のシルエットは

まるで生き物のように

雪面を時にはゆっくりと

又 陽光に導かれながら

駆け足で樹間を

駆け抜けてゆく

季節の変わり目を示す

音のないさやかなドラマは

一日に幾度となくくり返され

いつしか白い衣は

淡い緑へと移り変わる

そんなドラマの名場面を

私は光の印象としてとらえたい



光る雪面(片波山)



氷室跡(西賀茂氷室町)

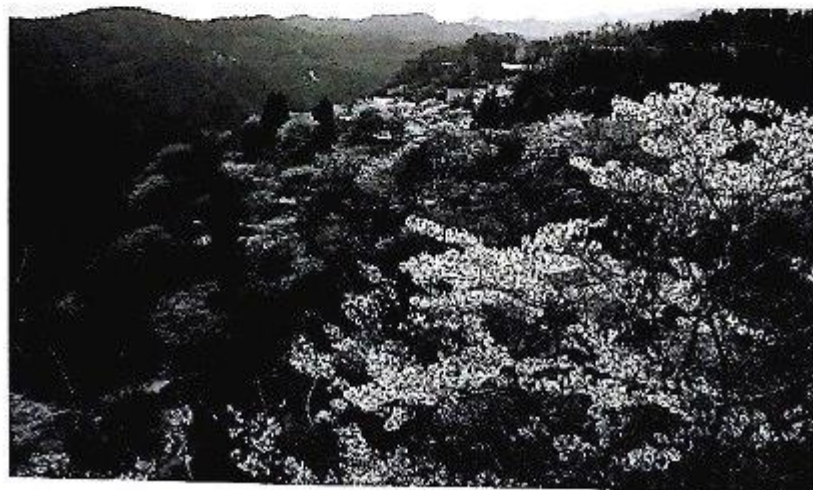
季節の



タンポポ



ツクシ

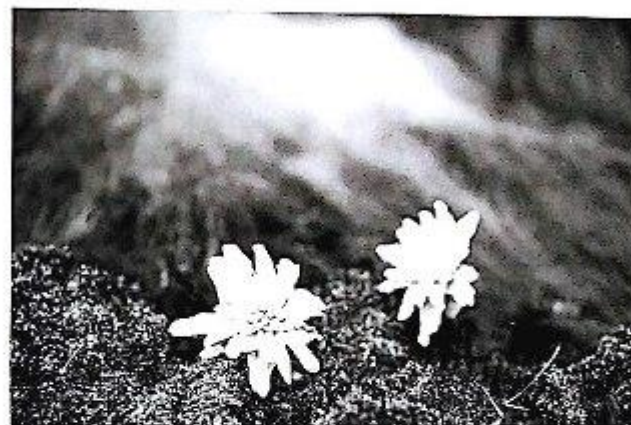


桜(宮野)

実景

撮影 武市通治

陽春



フキノトウ



コブシ



溪谷のせせらぎ (鈴鹿)

三輪 裕



御在所中道から見た鎌ヶ岳 (鈴鹿)

高橋 実



藤原西長原丘 (鈴鹿)

三輪 裕



中道から見た御在所岳 (鈴鹿)

高橋 実

●目次

表紙:松田敏男「ダンボスよりマチャブチナリ」(ナバル・ヒマラヤ)
 ●特集:プロフィール●1993年、京都西生まれ。京都府立第一高等学校、
 1987年より山岳部、山岳部の部長を務める。(京都府立第一、高アルプス登山会、他)
 京都府と親しい山岳部、日本山岳会会員、一歩三島の研究員

新仲間 関西の山
 '93年3・4月陽春9号

●グラフィック	京都北山撮影紀行①「残雪の光の印象」	北川 裕久
●随想	「山のまかせ」	武市 通治
●リョウメンシダ	大連の単独行	稲垣 いつを
●比良・折立山の由来		内田 嘉弘
●古光山から北山時		岡本 流雄
●大長山	「日本登山紀行」 仙丈ヶ岳	柴垣 貞夫
●井関峠から須石山		多摩 孝一
●雲谷山		内田 嘉弘
●新池岳・藤原岳天狗岩		賢治 裕久
●運載エッセイ・京都北山ぼんまのになし		北川 裕久
●第11話ヤブ山探訪		36
●第12話悲しき残雪の風景		37
●第13話ある女性との旅り逢い		39
●第15話おぼあちんの形見		42
●京都北山・やぶ池き浦決山行記「八」		44
●文学歴史探訪ハイク①	北・山ノ辺の道	京都北山グループ 松永 恵一 宮田 啓司
●コース	1) 箱鏡山	尾佐次盛一
●ガイド	2) 大鏡山	鹿嶋 弘幸
3) 三笠山	森 康夫	
4) 茨倉ヶ岳		
●アウトドア・ライフ入門①	「木の芽ウオッチング」	二名 良日
●近畿の名山1000	「真崎 日出」	阪上 義次
●たのしい山歩き・尾瀬雄考①	「尾瀬に生きる人」	松下 満
●沿線ハイキングガイド	60 新ハイ関西山行計画	66
●せせらぎ	63 バス時刻(公営バス)	70
●サービスマニエーション	63 新編後記・広告案内	72

自然を歩く仲間です。

登山・ハイキング用品 '93新製品 続々入荷!!



ご購入の際は、新ハイキングクラブ・メンバーズカードをご提示の方には、OD BOXメンバーズ価格でご提供。

タイドロック加工が皮革靴の防水性と透湿性をさらにアップ。ハイキングやキャンピングなど、幅広く活用できる一足。
 ダナー クロスハイカーHi ¥17,800
 クロスハイカーLo ¥16,800

※この社、OD BOXには一決メーカーの登山ウェア、登山靴、ザックなどが数種類、在庫のご用意をおこなっております。

自然で暮らす。

衣食住

遊休 CAMP

OD BOX

アウトドアライフのトータルショップ

OD BOXのコンセプトは「自然と遊ぶ系厳生活」
 自分好みの自然とふれあふ。「登山」の楽しさを通して、もっと自然と仲良くしたい。OD BOXはそんなハートを満たす、一年中アウトドアの専門店です。

通信販売でもお客様のニーズにお応えいたします。お気軽にお問い合わせください。
 (9時~20時)

4F テニス・トレーニング
ウェア・ランニング用品

3F 自転車・カヌー

2F テント・シェラフ
テック・キャンプ用品

1F 登山靴・登山ウェア
アウトドアウェア・バック

B1 ダイビング用品・
旅行カウンター

OD BOX大路店
〒600 大阪市中央区西心斎橋2-10-34
TEL 06 (212) 9866
定休日: 第3水曜日

営業時間: AM10:30~PM8:00
日・夜: AM10:30~PM7:00

巻頭言

一月、二月と、冬が深まると、日が長くなって今年も草木の芽吹く音が遠くから聞こえてきた。うれしくて、ワクワクする季節です。山に再び生気が蘇り、人間の生活がどうであれ、自然のリズムは確実に時を重なり、春の風と香りを運んでくれます。

里は梅から桜に変わり、山ではまづ白いコブシの花が咲き、やがて若葉がいつせいに芽吹きます。また新しい営みのサイクルが始まり、秋になって草木のしおれるまで、これら自然は、私たちにたのしく遊ばせるフィールドを提供してくれます。

ハイキングのよさこひは、これら自然の恵みを感受し、いかに上手に付き合っていくかにあると思います。今春からでも山を歩きたい。花が咲いていたらその名前を覚えたり、小鳥のさえずりを聞いたら、その鳥が何か分かるようにしたり、又木の幹を握ったり、葉の形でその木の品種や名前が分かるように……。これら自然観察と呼ばれることから始めてみては如何でしょうか。

名前を呼んで、もの言わぬ自然と語り合ふ。ひとときを作って下さい。

新ハイキング関西(代表) 村田晋雄



克



克

随想 (山のエッセイ)

リヨウメンシダ
稲垣 いつを

羊歯植物の採集に夢中になった時期がある。どの谷のどこにどんなシダがあるか、今でもぼつこぼつ覚えていて。ところで、先述といふのはありがたいというか、ありがたすぎるといふか、そんなところがある。少しは新種発見の余地を残しておいてくれともよさそうなのだが、こゝ日本のシダに関してはそんな可能性はほとんど無い。それでも稀な種に出会ふと、それなりに興奮もしたし、なるほどなるほど、そやからこんな文面なんかに、とその命名センスに感服したりもした。

裏餅をつけない葉では裏はほとんど同じ色調で区別しにくいところから、この名が付けられたという。初めてこのシダに出会った時、なるほど確かに西面だと感心した。しかし同時に、ちよつとまでいふのである。しばらく経つて、いよいよそのひつかりのわけが分かった。それは、「シダに西面があるのはあたりまえでないか」ということであつた。

こんなシダをなせおつくりになられたのだらう。以来ボクは、このシダと出会うたびに、おつ、イチメンシダ、と呼びかけたつて、いゝ。もちろん人に聞かれた時は、これこれというわけでリヨウメンシダというふうです、と正しく説明している。ボクとちがつて皆さんは、うーんなるほどなると素直に納得してくださる。西面というとなんとなくジークル博士とハイド氏を連想してしまふが、好きなシダの一つである。

犬連れの単独行

内田 嘉弘

昨年秋、大峰山系の笠原山に入山された単独行者が行方不明になられました。すくなく警務、消防、山からヘリコプターによる捜索、氏の所属する山岳会を中心とした第一次捜索隊、第二次捜索隊(小学生も加わつた)が、氏の計画書に

よる足取りを辿つて入山したが見つからず、捜索打ち切りになつた遭難事故がありました。単独行の場、用心深く、慎重周到、常識なまでの設備力、産実な登山刀、冷帯な状況判断(雨天翌日も含む)、孤獨に耐える力が必要です。つまり、登山における場合力がないことには、単独行は危険なのです。

先行させ、その後に行きますと、まず間違わずにルートを下つていきます。但し、何か機物を見つけて追つかけて回している時は別ですが、犬連れだと単独行でも多少安心感があるのは確かです。また、熊と出くわした時でも、犬がそれを警戒してくれれることもあるからです。

比良・折立山の由来

網本 逸雄

私は一時期、北アルプスや南アルプスに単独で入山していたことがありましたが、現在は仲間と一緒に登っている方が多く、その方が思い出深い山行となつていきます。また、どうしても単独にならざるを得ない時は、犬を連れて行くことにしています。山行中、犬に頼りかけることによつて孤独感はなくなり、藪や道わづら分かりにくい山道でも、犬が先に踏み跡を見つけて、きつとそこに歩いてくれたりします。また、ルートの判かりずらい山に登つて、その同じルートを下る場合に犬を

中まの境界争いの名残り
比良山系は比良山の正位に折立山(819m)がある。アラスカからすぐ直ぐに位置し、大津市葛川坂町と同市伊香立浦町との境界にある。
「折立」「立」の名は、全国に散見するが、その語源は、ふつと生みタテの串とか、つまタテの餅というように、「板」をおりたすくすの所」をいう(山中表心)。

折立山も、中世は「立山」と呼ばれ、花折時を降つたつた西側(北側)の葛川谷東部一帯の山と認識され、葛川木戸口町のニゴリ谷(ニゴ谷)あたりが北限とされ、以北は朝霧山といわれた。それが現在の位置にまで後退したのは、中世の伊香立庄を葛川明王院の管轄者との間で記された、百年にわたる争いをめぐり争奪の結果である。
葛川谷は、単独行を開始した比良山系聖寺の相比和尙が初めて開いた。
「帝王相年記」葛川縁段に「とらと、貞徳元年(八五五)、相馬が比村の明王谷の三の滝で修行中、不動明王が出現したので、本尊にして天竺三尊御像を奉りて開いた。
しかし、縁段だった葛川も、中世の山開きで、建保六年(一二二一)、頼朝が犬を飼ふ葛川と伊香立庄との間で争奪が起る。
霊城を主張した鎌倉末期の「葛川明王縁段図」朝王縁段が現存



随想 (山のエッセイ)

克

しており、彩色地図と無彩色の簡略地図の二種がある。簡略地図の表示には「下立山」とある。彩色であることを示すため、花折峠から折立明三郎までの参詣道中の地名や修行堂が記されている。

回廊行者は、北観山無動寺から途中村を経て、まず御前山折立である花折峠で、「山神に花巻を折つて奉げ、修行成就を祈る」と彩色地図の花折谷に、「花折一本木」が描かれ、「奉山神花巻折立」とある。時々の田米でもある。

峠を降りて、「下立」一本杉(現在の「平」)を通り、崩坂の時を登降して、ヘタ谷、ニゴリ谷を登道中して明王堂にたどりつく。

崩坂は現在、地名が残っていない。徳川絵図研究会の下坂守氏らの空中写真などの調査によると、サカサマ谷とサカ(坂)谷の間のケルンパットとみられる小孤立峰が、対岸の足尾谷(アシミ谷)にくつと張りだしている。ケルンコルに様々の痕跡が見られ、平から

この部分を越え、サカ谷の谷口にふる高川坂下町までが、かつての崩坂と分かった。

高川谷花折折立へきた。折立で生じた孤立峰はよく眺望したらしい。崩坂とほうまく名付けたものである。坂下集落も、かつては「坂の下一村」と呼ばれた。

さて参詣道は、高川川が、崩坂の南の「下立」一本杉」を境界とす。伊谷立頭は坂の北のニゴリ谷までを「燃焼之山」と主張した。文政元年(一三二八)には、伊谷立頭か羽根抄はも起きた。伊谷立頭からその製茶に備えて、高川川はニゴリ谷其嶺に木戸を設けたという。木戸口の集落の起りである。

同年、「下立山」と高川の崩は、一本杉を奉とす。それは、甲坂(花折峠)の走下(下立)と崩坂の走下の中央故なり」と決着を見る。

「繪圖のコスモロジー」上巻、地人書院。

結局、下立山は現在の折立山付近の領域に狭められてしまった。絵図にも描かれたこの一本杉

は、花折峠を降りたすぐに生えていた大木だった。バス停から200メートルほど西に国道367号と旧石炭街道が交差し平集落に入る。交差点北西の庚申堂のある、もりもりとした杉林が、一本杉のあったところだ。

土地の人に聞くと、20数年前まで、直径2メートルの大木があったが、枯れたので伐採して完つてしまったようだ。

なお、平は現在、「だいら」と呼ぶハイカーが多いが、正利時代の「五参詣繪圖」(明王院蔵)では、「中(の)たいら」とある。つまり崩坂と花折峠の中間の平坦地をいった。坂下村の域だった。

下立山は、享保十九年(一七三三)の「近江美濃地志」では、「折立山」と変わっている。ただし明治初期の「近江国志」(徳島)では、「下立山」の字をが見えるので、併用されてきたようだ。

いまではハイカーも貝岡きもしない山である。

室生 古光山から亀山峠

古光山から亀山峠

柴垣貞夫

室生

近鉄京都駅で時分発「福原神戸間」急行に乗車して出発。途中の駅ごとに続々とメンバーが乗り込み、車内での談話風景が下手さを増す。今日はさぞかし賑やかな山行になることだろう。八木駅で大阪からのメンバーも加え、総勢21名の大パーティーに膨れあがる。

名産駅から500mのタクシーに分類して大陣に向かう。「大陣へ」と言うよりも「流き場へ」と言ったほうが運送士さんに分かってもらえるのには可笑す。香濃川の絶壁が連なる風景を楽しみ、今井の集落を左折して、緩やかな斜面に並ぶ田圃や、白い葎をおく農家が点在する。絵になりそうな高原の道を登つて行く。紅白の花をつけた梅が今が満開、芳

しい香りをより多く、京都よりちよつと遠い春の景色は、あくせく暮らす都会人にとって、清涼剤に似て実行を和ませてくれる。

50分のドライブで、「火葬場」のある大陣につく。少し遅れて「大阪参詣道」のパーティーが到着。同レベルですが、追いつ追われつでよろしく」とエールを交換する。

コース説明のあと出発。古光山へは構内をお通りくださいの木が立つが、火葬場の残骸を踏むのは縁起が悪いと、峠を少し東側に下つて笹にかくされた古い登り口から北斜面に取りつく。杉林を始発期で通り抜けると、いきなりもの薄い急登が待ち受ける。予想はしていたものの、45度ぐらいの急傾斜、火山灰地特有の粘土質は足元が定まらず、笹や雑

古光山から亀山峠への道



木をつかんで体を支りあげようとする登り方だ。体が慣れない初っ端からの急登は思がされる。たまたま横道にそれて少しでも楽なルートを探す人もいたが、大して要わらずまた行列に戻る。それだけに團體がグングン伸びて腰が痛むもの早く、振り返り眺める景色がすばらしい。どこから見ても三角形の鋭いピークを見せる高見山や三峰山が樹木におおわれ褐色に輝き、その後ろに煙く台岳山地



岩尾根をゆく

も憎水がついているのか、頂を近く集めて連なっている。昨夜はグッと冷えたんだのだから、足元の斜面にも霜柱が立っている。暗きながら登る皆さんに、「振り返って展望も楽しんでくださいよ」と声をかける。
 登山もやや緩やかにになると、まもなく古光山南麓の960mピークに登りつく。展望を楽しいお楽しみができたのか「あれは崩原岩」あつちが住城山と崩原山「大河山と崩原山も

見える」あの柱石の高さが、崩原山や、ひやーあそこまで行くのん」と、360度展望を回して崩原の山々を探すのに似ている。北山の雲やかな山並みを望めた目には、三萬形に突った「ミラミダ」な山容や、広々とした高原が珍らしい。この辺りが室生火山群と称され、木古の噴火で削り出された、数々しく変化にとんだ地帯である。こんな景色にまた違った魅力を感じて、遠い所から尾を運ばせられるのである。

ここから古光山本峰まで、距離は短いが恐竜の背を思わせる凸凹地形を歩く。道は雑木がなかったら、さやかし恐いだろうと思われ、ほどに緩やかな傾斜を中央にたどる。途中、岩尾根のところは、熊の一番よい所だし、履きも脱ぎたいし、さりとて足元から目をそらすと崖下に転落の危険地帯。ちよっとスリルを味わって進む。幾つかのコブを乗り越えて、△958mの古光山のピークに到着。三角点の頂上は24名のメンバーでいっぱいなのに、連れて登りついた「歩道協会」と重なって相模川、文芸と「歩道協会」を重ねて古光山とのコル、フカクワ、ワワはこの地方では姉の姿への下階にかかると。
 この下りが大変、まるで直下に向かって進歩しているような急斜面、相模川の土質

のズルズル道。今日のコースで一番心配していた道で、万一に備えザイルを持参した。しかしさすがに日頃鍛えたメンバーだ、危険なところはガサゴンとソアの中に踏み込み、雑木にすがって上手に下ってゆく。所どころ、崖や切り崩りの道にロープが付けられているもの、アルミのハシゴは壊れて使えないものも。滑ってズキンと汚す人、滑りやき声を出す人もいたが、ザイルを使うことなく無事フカクワに下りつき、一息入れる。

時間には12時を回り、そろそろ空腹を感じる。ここからもうひとつ険しい登りのアルパイトが残っている。大阪のパーティーが急昇をしてくるのを後目に見て、我々は後古光山を越えてからと下歩をいたで、登りに取りつく。この後古光山は、まるで地中から噴き出した溶岩が固まって出来た突起物のような山である。急斜面の大きな岩の間を登ろうようにして、垂れ下がったロープにすがって上り登る。階段ではきつと辛い思いをしそうなお所まで、食事を後にしたことは正確だった。山頂は10人も立てばいっぱい位の祭だが、さすがに無言がすばらしい。目前に、崩原高原のさえるものない枯れ草色が広がった二本ボソ、但馬山稜の濃い緑と、澄みきった空のブルーが描く、とびきり明るい色彩の展



間にしばらくはくもられてしまふ。再びソルトル着る急斜面をロープにすがって降下。ここをスポンを踏まずに来たことを自慢したたんに、ステンと転んで泡だらけになる人もいた。結核スリルを染しんで道原に下りつく。
 明るい霞の尾根をゆき、13時すぎ山崎峠に出る。この日帯まりで登山の昼食にする。長尾峠からの崩原山、炸木や笹の中をしぼく進む。登山道が崩れ、崩原の端に立つ。まるで大きな樹の幹に登り着いたような感じだ。崩原は崩れずかきり枯れススキの草原、後には古光山から後古光山へと歩い

てきた山が、微しかつた急降を思い出させるようにニョッキリと尖つてそびえ立つ。ここでリュックを下ろして、ゆっくり小休止。気持ちよく開けた展望のもと、穏やかな香風に吹かれ、底抜けに明るく景色を眺めながら歩もはすむ。が、もう一回登りが待っている。
 今日最後の登り、山崎峠に向かう。他の背のように丸い山(重山)を乗り越すと、山崎につく。まっすぐ登ると崩原山、右へ下ると山崎。中太田生に出る分岐点。我々は左へ、太良路に向かってススキ原の中の水の洞れかかったお車道を登り下りしながらの

下山道をゆく。休日ならば沢山のハイカーや家族連れで賑わうこの辺りも、今日はこんな静かなのに、大阪のパーティーが前を行くだけで、ひっそりと静かなのが嬉しい。しばらく高原の澄んだ空気を深呼吸し、崩原高原と別れをつげ、林間に入り東山自然歩道を下る。山を降れる時に感じる、なんとにはなしの淋しさと、無事登山を終えた安堵感を味わいながら、16時20分太良路のバス停につく。ピークやジョースで乾杯して解散。17時6分のバスで山崎駅に出て、機銃のよい電車で飛び降り、八木駅13時45分発の急行に接続して京都へ帰る。
 平成4年3月22日歩へ帰る

- 〈参考タイム〉
 近鉄山崎駅7・45発→八木駅8・46(乗り換え)8・53発→山崎駅9・23→9・40(タクシ)大崎10・30→南郷11・00→古光山11・30→40→フカクワ12・10→後古光山12・35→長尾峠13・05→14・00→山崎14・50→お車池15・10→太良路16・20→17・06発→山崎駅17・45→17・52発→八木駅18・31(乗り換え)18・43発→山崎駅19・47
 〈地形図〉2万5千→山崎山
 5万1名張
 昭文社「58赤白・崩原高原」

貫禄充分なる

大長山

松田敏男

奥越

白山の西面方向に連なる山々には、いい思
い出がふたつある。

ひとつは秋分の日に登った赤尾山。早朝
の5時ゆかに京都を出発して、10時前に湯ヶ
湯に着き、そこからの往復というロングコー
スを迎った。休憩も入れてだが、も脚間を委
し、湯ヶ湯に戻ったのは18時頃。もう真っ暗
になる寸前だった。そして22時30分には京都
に帰っていた。

頂上での白山の大展望は、実に見事だった。
ゆるやかな世原の赤尾山のスロープを隔て
て、秋に彩られた白山連峰が、横に長く連な
っていた。丸みのあるやさしい表情の主峰と、
細かく谷を刻んで哲学的な風貌の別山との好
一对は、長い通瀬が決して冗漫にならず、し

かしくても悠然として、秋の青空をくっ
きりと縁どりながら広がっていた。頂上に着
くまで、白山が見えなかったことが、より劇
的に作用したようだ。

もうひとつは霧ヶ岳。これは昔々の日の通
体だった。笠原寺山にテントを張り、めざす
経ヶ岳を眺めた。次の日は曇りつつない快晴
だった。昔々の昔々をはるかに超えて、何か
思慮なまでに無彩色のグレーに近かった。空
の奥深くに吸い込まれて、この世が分からな
くなりそうなほど、くらくらとした。原上
からの展望は、その名の通り真っ白な白山連
峰が、まわって立派に見渡せた。本峰は深い
白き雪を添えて輝き、別山はいくすじもの渠を
強くきわ立たせて屹立していた。

テント場より見上げた大長山



そして今回登る山は、この山域の最南端で
ある大長山。その山頂を眺めしめる日を、久
しく懐い、待ち続けて来た。そして、それは
またしても昔々の日の酒代、好天への期待を
抱きつつ、奥越へと向かった。しかし出陣で、
千定の密史を全無視なくされた。道標が小原の
集落のはずれの滝波川に架かる橋のところ
で、なぜか道標止になっていたのだ。もった
奥まで直で入って、積雪でテントを張りたか

ったのに。テントを開けて、夕日に輝く白山
を眺めながら、酒を飲みたかったのに。

しかたなく車を駐めて、除雪された舗装道
路をジグザグに降り始める。左へ野水池に下
って行く道が分岐する地点までの1時間程
は、単調な道りだった。しかしこの公枝か
ら先は、雪の上の歩行となった。靴がもぐもぐ
程度なので、あまり疲れはしない。林道を高
原を上げながらゆくり進む。曇天。でも晴
れるような気配がある。もう春なのにやはり
雪はまた冬景色だ。

地形図をうまく読み、蛇行する峠道から離



れて、雪の中に道をつくって、歩行困難を結
める。やはり我が会の大山リーダーの判断は
年季が違ふ。スベッツをつけて、膝下のフツ
セル。元気な時は、このラフセルが楽しい。
晴れてきた。今日は林道歩きに終結しそうだ
が、明日への期待は高まる。

林道が尽きる少し手前、標高1000mのあた
りでは深根に取り付いた。小原への登道は、
谷が広くて判かりにくいということ。難関
なルートである要領を導いた。峠から北へハ
つめのコブの不安山から、真西の方向に派生
している支線である。30分経った115
mの地点を、テント場と決めた。

大山さん調理のいつもの豪華な食事に大満
足して、早めに寝た。星が出ていたので、明
日の好天を信じて。

しかし、寝たが、ホワイトアウトの中、
ひたすら眠々と寝た。フナを支柱にした樹
相が美しい。フナの根元は、雪が降り始めて
丸く積んでいる。その地形には、いつも巧み
のない美しさを感ずる。同時に生き物のあた
たかまが伝わってきて、心がなごむ。シラン
と静まり返っているモノトンの景色。大山
さんがつけていく布の赤色が鮮やかだ。雪の
上が何となく明るく思えるのは、気のせいだ
ろうか。

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。

足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。

〒604 京都市中京区九条町通船山東入
☎ (075) 211-5768
FAX (075) 231-6316

山とスキーの専門店

京都 ムラカミ



大長山稜線より白山(左)と別山(右)を望む

湖で薄ぼんやりとした雪の稜線のみの世界となった。天と地との境目が分からない。踏み出す一歩は天なのか地なのか。先が読めないまま、傾斜が急になってきた。ピッケルとアイゼンとをフルに活用して登りきる。そこにはこれ以上高い所はなかった。しかし断定するには、あまりにも境界がなまなかった。向こう側へ降りていって確かめた。やはりこれ以上高い所はないようだ。だっ広い山頂の

ひとところに、木が雪の上を根を出していた。二匹のシツパが、しつかりと威嚇していた。ビールで乾杯する。缶の中が凍りさくさくしていてうまく飲めなかった。すでに頂上を降りて急斜面を下る。三宅さんが滑った。少し前まで最後尾につけていた大山さんの直感、すばらしかった。いつの間にか先頭になり、待っていたのだ。さくもは滑った所で、見事に三宅さんの体をキャッチ。河水さんはアンザイレンしてもらう。雪の斜面を下る時は、つい腰が手前に引けて、横向きになってしまう。重心を次の一歩にしっかりと移すようにして、真上からアイゼンの全開を力強く雪面に踏みしめて降りなければならぬのだが。

そんな不安の状況だったのだが、ほんとうに突然、一気に霧が晴れて、暖かくなった。周囲が俄然明るくなり、経ヶ岳の双耳峰が全容を現わし、真っ白の赤兎山がくっきりと光り始め、そして白山連峰が長く大きく見附らされた。ああ美しい白山。白くおちやかな峻白山。もう一度、乾杯!

解氷は陽を受けてキラキラと輝き、空が徐々に青くなってゆく。雪の道の限り忘しは明るく、つい先程までとは別世界だ。刈安山で白山と別れた。名残りは尽きないが、時

間がない。記憶に添うとどめるべく、じつとそのおちやかな白山を見つめた。雪原の中に針葉樹がまばらに生えていて、メルヘンチックな美しい世界が広がっていた。わたしたちのテント場は、大長山を見上げる絶好の景勝地だった。健達の林道は長く、随分疲れたけれど、奥まった所に白い大長山が見えたり、鳥居ののしかかるような絶景な尖りが目を惹かせてくれた。また下山方向の遠くには、越前甲から大日山への大きな山塊が望まれた。昨日と違って変わったボカボカ曇りのエピソードとなった。

車に乗って小原の集落をあとにした。振り返り見れば、山々の最後尾は白くどっかりと、胃袋充分の大長山が眺められた。

(平成4年3月21日、22日歩く)
 ▲コースタイム▽小原の湯波川に架かる橋(4時間15分) 尾根取付点、標高1100m付近(30分) テント場1150m付近(道) 1150m付近(3時間) 大長山(2時間) 尾根取付点(3時間20分) 小原の橋(地形図) 2万5千1加賀市ノ瀬・願成寺山、北谷・越前勝山

5万1越前勝山

連載

日本霊山紀行 7

仙丈ヶ岳

3033m

浅野孝一

仙丈ヶ岳へ登る



天龍川流域の伊那市あたりから仙丈ヶ岳を見ると、堂々たる山容を見せている。登ってみたいなあ、と心の動く山である。伊那谷にある由・高野学校では、毎年この山に登るのが行事となっていると聞く。そのためか、伊那郡教育委員会から「仙丈ヶ岳登山案内」というパンフレットが刊行されている。非営利であるが、山腹の仙丈荘で購入できる。仙丈ヶ岳の歴史、自然、登山コース等が、詳しく記載されている。

仙丈ヶ岳は、南アルプスの北部に位置する山で、3000mを越えている高山である。三角点の設置されている頂上の南に大仙丈ヶ岳、北東方向の後継上に小仙丈ヶ岳があるが、共に3000mほど達していない。小仙丈ヶ岳

から稜線通しに下った所に北沢峠があり、峠から反対に、稜線つなぎを北へ登って行く。駒ヶ岳に達する。

仙丈ヶ岳の東には深い谷があり、白川が流れている。その上に駒ヶ岳から続くアサヨ雄風(二山) 南に本郡界一の高峰、北岳3192mがそびえ、更に南方には南アルプスの山々が望見できる。

西の方には、天宮川をはきんで中央アルプスの山々、北には北アルプスの山並み、その右手に渡間山、八才岳、豊後父の山、左手に無影岳、木曾の御嶽山を見ることができ、まさに、歴史に想われた山頂と言える。

仙丈ヶ岳という名称は、高さ一千丈、すなわち高い山である。信州では、単に前山とも

呼んでいたことがあった。

仙丈ヶ岳への登山の歴史は、「木之下谷」という安永年間(1772~1780)に書かれたものに、高瀬藩士葛上忠五兵衛が登った、と記載されている。近代に入ってから、明治30年(1897)に、日本山岳界の父と尊敬されている大木理太郎が登っている。次いで、日本の山々を海外で紹介したW・ウェストンが明治35年(1902)に登っている。



小仙丈ヶ岳からみた仙丈ヶ岳

その後、「日本アルプス△△△△△△」の他の著書を残した小島局水が書いている。
大正期は日本の登山史の黄金時代で、未開の山頂が数多く登られ、またピークハントから縦走登山へと移行した時でもある。その主なものに、大正7年(1918) 慶応大学山岳部の青木重二郎等による奥穂三山(駒ヶ岳・仙丈ヶ岳・北岳)への縦走がある。そしてさらに大正8年(1919)には、仙丈ヶ岳から

北岳を攻入、堀尾岳、赤行岳への大縦走が試みられている。

南アルプスには、3000m以上の二峰が九座あり、その最難峰は北岳で仙丈ヶ岳は八番目。小島局水は仙丈ヶ岳の3001.3mである。昭和11年(1936) 11月、藤崎ヶ岳で遭難死した鏡井吉造は、その著書「伊勢谷・木曾谷」の中で、仙丈ヶ岳のことについて記述していない。そして「故山断絶の口で、一枚標の山のうちから僕の心のハイマートを探せばそれはきっと北岳に違いない」と言い切っている。

そこで私は、この文の中で仙丈ヶ岳を多少弁論してみたくなったのである。

私は幾度か仙丈ヶ岳へ登ったが、その中で一番印象に残っている山行は、ある正月、大河原から地蔵院橋を越った時のことだ。長大な尾根の上部に天幕を張って、そこから山頂を目指した。これ以外の登山はすべて北沢峠からであった。

昨年は二度仙丈ヶ岳へ行っただ。

一回目は4月下旬、雨のため登山を断念して、四合目の少し下部から下山した。そして戸台に泊まり、戸台川沿いに歩いて大平小屋へ。この時、戸台川の岸辺に綺麗な山間の桜の花を見た。

二回目は9月、再び大平小屋に泊まって、縦沢のコースを通った。大平小屋から樹林帯の緩い登りを過ぎると、数沢大流の見える地点に達する。ここから縦沢に沿って登ると、数沢小屋からの登山道と二峰になり、馬ノ背ヒュッテに行く。

馬ノ背の横線のハイマツ帯を登って行く。前方に仙丈ヶ岳が見えてくる。しばらく行くと仙丈小屋に着く。小泉付道はカーブで、水が豊富に流れている。小屋の裏にはモレーンがある。その裏のガラガラのお湯を飲むと山頂で3000度の標高が広がっている。

山頂には、「三柱天神」「初利天」「不動明王」の石碑があり、登山道であるという痕跡を留めているが、この山が神山として今日に至っている、ということを書き残した文献に、私は出会っていない。

下山路は小仙丈ヶ岳から北沢峠へ下る。このコースは距離が長いので、休み／＼下るとが肝要だ。
山頂一帯は巨石帯である。霧の日とか風雨の強い日の登山は避けるようにしたい。5月の連休期間には、北沢峠から訪れる時間の短縮を図る。正月休み、5月の連休には北沢峠付近



仙丈ヶ岳付近略図



GAIA

キャンプ・ハイキング ザック

テトラ 48L 赤札 ¥9,000

アリゾナ35L // ¥6,800



時長
① パラレル、インナーフレーム付
② スーパーウエストベルト付

GAIA-JAPAN

ヨメスポーツ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70

TEL06(772)7231

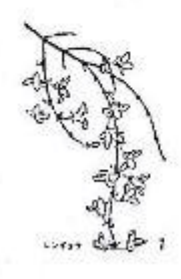
FAX.06(779)2191

に大群材が出現する。
最後に、高野式編纂の「日本山岳誌」の仙丈ヶ岳の項を引用して、

「仙丈ヶ岳」(伊勢谷十丈嶽、前山)甲斐國中巨摩・北三條ノ二郡信濃國・伊那郡三峰火、中巨摩郡東安河字遠倉吉里凡十二里十八町ニシテ其山頂ニ五石、標高九千八百八」
平成4年8月2日(白く)4日歩く

△登海タイム▽大平小屋7・00―滝見橋7・55△8・00―数沢小屋7・15△9・25―馬ノ背9・50△10・00―仙丈小屋10・45―仙丈ヶ岳11・10△11・45―小仙丈ヶ岳12・50△13・00―大流の原13・40△13・50―北沢峠15・00

地形図 2万5千―仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳
昭文社「10万歩調・北岳」



野外塾

●木の芽ウオッチング

関西アウトドアースクール
校長 二名良日



春の到来に心躍る早春の山行。登山者には最も身近な自然である山の木々は、まだ花も蕾もない、ヤツと新芽のふくらんだ状態で、山全体が抑々木肌をさらさらしています。ほとんど同じように見える冬から早春の樹木ですが、山歩きの中では、ハシ・ツマヨウジ・ツエ・カンジキなどは、安全で適当な木を選んで使ったり、カブレる大や巻の木など危険な木を避けて油断なければならぬ場面に出くわします。

植物の分類は、生相学やある「花」を中心にした「葉」の形とその付き方などを総合して体系化されていますが、花や葉が全くないこの時期には、「冬芽」の形やその付き方、「枝や樹皮」などを手がかりにするしかありません。動物たちは、生存するために木をエサとして、舌や歯などを使って識別をしていますし、冬が長く落葉樹の多いヨーロッパでは、古くからこの分野の研究が進んでいました。日本でも、最近になってやっと、冬芽の写真にペーシジをさいた植物図鑑「北海道樹木図鑑」(田嶋西彦)が編集されたり、児童書にも、落葉(葉の落ちた)の木、人間や動物の顔に見立てた写真集(ふゆめがっしょうだん) (福音館書店)などが出版され、関心が高まり始めたようです。

1年の大木を占める幹から冬・早春の季節に、葉木を占めるヒントとして、特に冬芽の付き方と「葉の形」などに注目し、意心に備ってメルヘンの世界を遊びながら、楽しく研究してみよう。

① 対生(冬芽が1節に2個ずつ付く)

トナノキ 葉形の極めて大きい頂芽(枝先に付く冬芽)と、最上位の側芽(腋芽)が発達し、ハート形の葉痕と、目鼻のような5つの葉痕(葉に養分を送る管の痕)が、暫んくクローブのようになり可憐く目立つ。

オオカメノキ フォークのように長く伸びた頂芽(冬芽)の間に2個の下の下の三角形の葉痕と、3個の葉痕(葉の痕)が、ヘアミード指人形の様。

ノリウツギ 円錐形の頂芽のまわりに、数対の小側芽が並び、目と口のような3つの葉痕(葉痕のあるV字形の葉痕)は、多面体クローン(樹皮)を、紙すき間に使われる。

ウリハダカエデ 三日月形の葉痕に、3つの葉痕(葉痕)があり、葉柄の葉を突き出した側芽は、一節だけ目立たない。深緑の樹皮に黒いスイカ文様が特徴。

キハダ 2つの頂芽(頂芽)が並列して側芽が互換、一節だけ目立たない葉痕の間に、密毛の生えたデカ鼻のような側芽と、目

口にあたる3つの葉痕(葉痕)は、ヒエロソツクリ

キリ 頂芽は発達せず、球形の2〜3個位の側芽が二股分枝化、大きな円形の葉痕の上で、干櫛芽を伴う。短軟毛の生えた楕円形の手塚マンガの風船アロー(そのもの)

タニウツギ 仮葉は枯れ、柄をもつ中心の側芽が成長する。つり上った目とオチオチオポ口のような3つの葉痕(葉痕)を持つ大きな三角形の葉痕の痕は、魔女ママ風。

② 輪生(1節に冬芽が3個以上付く)
キササゲ 仮頂芽は小さく、冬芽を包む葉痕が4〜6対ベラ花状に突き出し、その下の円形の葉痕の中に、15〜20の葉痕(葉痕)が楕円状に並び、スの入ったカブの断面? 長さ30センチ



もある豆莢が隠れながらるので、よくわかる。

③ 2列互生(冬芽が枝上に180度ずつつられて交互につく。そのらせん生と同様)
タンポポ 同じ節に2つずつ葉痕が続くが、側芽は1列に1つおきにつく。V字形の葉痕のまん中の干櫛芽と、その上の冬芽の葉痕には毛が生え、3つの葉痕(葉痕)が目と口そのもので、Tヴァニメのヤットデタマンのボヤッキーに似ている。

ニガキ 短柄のある頂芽は裸出し、密軟毛の生えた2〜4の末葉が、その下にある5つの目や口の円形葉痕は、バツンアロー(長いダイナミックな内に見える)。

シナノキ ジグザグの円折枝につく卵形の大きな冬芽と、その下の目鼻側には5等分小さな三日月形の葉痕と数個の葉痕(葉痕)は、カーバン人形、樹皮の繊維は強く、オヒョウと共にひもや織物。

ムクノキ 結核形の頂芽の、日向側だけが干櫛芽を持つ。目と口に当たる3つの葉痕(葉痕)のある葉痕の上の、4〜5対の芽痕には短軟毛が生えて、タケノコ王子の風情がある。

ハルニレ やや日向側に片寄る冬芽は、三日月のようなくさす毛の生えた葉痕が、3個の葉痕(葉痕)を持つ三日月形の葉痕(葉痕)の葉痕と似合って、まるで森の小人ちゃん。

④ らせん生(らせん状に冬芽がつく)

キリン 冬芽は上かららせん状に大木(枝)に枝(目)はりがありネジレる。3個の葉痕(葉痕)を持つ葉痕と、ターバンのような葉痕は、ネジリ胎子(子)を連想。枝上位に花穂がつく。

ハクワンボク 圓折枝で、そのらせん生(らせん生)の生えた冬芽に干櫛芽が1〜3個つき、二股のらせんのチャンチャンコ人形?

タカノツメ 子なししらせん生(らせん生)の冬芽が「鷹の爪」に似るとの説もある近隣のコシアラは、枝太く頂芽が円錐形、葉痕(葉痕)は、葉痕(葉痕)などの点で区別できる。

ヤマハセ そのらせん生(らせん生)の頂芽は無毛で、3〜5の葉痕(葉痕)に多数の不規則な微小葉痕(葉痕)が散らばる。同様にシラヤマルシは、子なししらせん生(らせん生)の頂芽は、密軟細毛の末葉が裸出し、1年生枝の基部に葉痕(葉痕)が集まり、側芽に代わる花穂痕も、葉痕(葉痕)は5〜10個でV字形、ウルシ液漬がハツキリ見え、切るまで液がふれ出る。

このユニークな新分野も、活字では無理なので、アウトドアの新分野も、山行(山行)で写生する(写生)など、実物での研究を重ねて下さい!

静寂好望

井関峠から俎石山

紀泉

多摩 雪雄

三原山古墳群と4ならび

大阪府堺市にある面積46万平方尺、世界最大の仁徳天皇陵は、前方後円墳で、三重の縣をめぐらせている。その規模は、空から俯瞰する以外には、地図上で判断出来るだけで、倒壊の現地拝礼所からは、幅広い畑を隔てた遺跡の遺跡が見えるだけである。墓の守衛は、ひとりもいない。

「四百より煙のため國中を見て、民の窮乏を察し、三年間も税を免じた」と、いう、歴史の時間を思い出す。

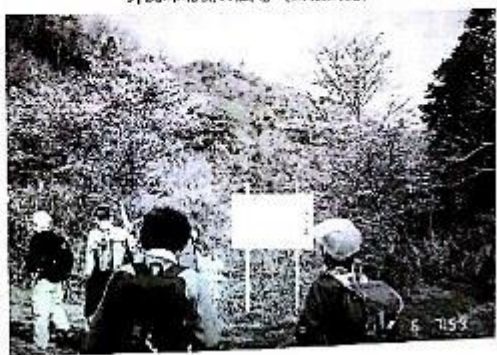
陵に葬られていた仁徳天皇は、神武天皇を父に、神功皇后を祖母とした、第十六代の天皇だが、生没年は不詳。宋書の倭王讚に附せられている。(423年頃)

子の墓中、反正天皇陵及び御厨山、いたすけ山墳等が、仁徳陵を囲んでいるが、反正陵は、方連神社と言われは判らない。この神社は、種組の古岡、引越の方位等を古く神様で、相当の賑わいを呈しており、反正陵の背面と隣している。

この日、大坂公園の一等三角点6・7・8・3を探索して、菅原神社から、土佐十一烈士の墓のある妙国寺の天然記念物大ソテツを見ようとしたのだが、拝観は4時30分まで、早く閉された大門前にて記念撮影したのには、平成4年4月4日、午後4時44分であった。

この日は暦の上では、二十四節気のひとつ、清明という日で、空面の延く、深く明るく、ことなのだが、大阪郊外から降り山した

井関峠北側の広場 (山桜満開)



雨のため、予定を変更して、南海電鉄堺駅より、タクシーを連ねて巡回し、石田川駅に向かった。

射矢止神社から鳴滝不動へ

紀ノ川を渡った六十谷集落に、古めかしい小社が、ひっそりと鎮まっていた。神功皇后が所降より凱旋した際、葛城山から来た天が止った地とされ、御神体はその矢で、天香具

土道が、山の端に沿ってゆっくりと通っている。此処には、立派な指塚がある。井関峠から葛城ヶ岳へ、狭いが長く続いた木道が、ほとんど高低差のない道を辿って行く。

葛城ヶ岳の北腹を巻いて行く道を捨てて、峠上の小径を登ると、目撃らしの無い樹や草の繁った、平坦な、何の要りもない頂がある。これも、やはり行場のひとつである。

送電線塔のある明るく小高い山に出ると、正面に大輪山がこんもりと盛り上り、俎石山への道が、黒々と続いている。

大輪山頂は、山麓本誓寺の奥ノ院があったというほど広く、樹木に囲まれている。地元で有名なわりには、葛城ヶ岳同様、つまらぬ山だが、静寂の中で瞑想し、大きな福を得る為には、改善されているのである。葛城二十八宿の内、第十二の行場である。

荷を降いて、8時40分、空身で俎石山へ向かう。ほとんどの資料には、ヤブを分けて行くように記されているが、大した難所もなく、原生林の狭い道に、しっかりと道が通じている。

広い草地の頂上に着くと、西北角が大きく、尖った俎石山一等三角点420・04に、標石が、藪の付いた頂上を、一片の影も無い天空にもたけて、真南に埋め込まれている。



山命を伊弉止、射矢止神社と称す。例祭日は、9月14日。

六十谷川沿いに北上する道は狭く、沢間に駐留するタクシイは、嫌がる。と、いう。和歌山駅近くの宿は、上品で美味な料理を出すのだが、料金の割には品数も量も少なく、いささか不満であった。NIIYAMA朝の導、ラウ女は道順で、5月22日、花むらの主人と仲居深のやりとりで、夕食は料金の30%と、いう額をしていた。ので、旅館なんて、ほんとに儲かるのだな。と、思いつつも、それにしても和歌山は少しひどいな。と、感じた。しかし、宿の人は非常に親切で、僕人タクシイ

をあらかじめ聞いて合わせて、早速四台を手配してくれた。乗車分は下車したのは、宿を出てから20分後の6時15分。各世帯にチップを奮発したから、早朝宿も、以後は心よく引き受けてくれるであろう。

車輪体操15分、井関峠ルートをとる。2万5千地図上、実線道は葛ノ谷分かれ迄となっており、四脚から戻りも出来るが、タクシイでは無理である。

後小角の母の墓があるので、その名称となつた葛ノ谷には、後ノ行善堂もあり、葛山峠を降用して行くルートとなつていゝ行場である。京都の聖徳太子門跡が、毎年お供を運れて、葛城二十八宿を回降する際にも、必ず、この行善堂を訪れる。

2万5千地図上では、送電線から先、標高差1000mの急登となっているが、広い千手川の急流帯を左下に見て、歩き良い斜度で、ゆつくり進んで、7時25分、井関峠に着いた。

小台地の一段高い所に地蔵を祀り、一圓の腐れ台がある他は平地となつていて、南方だけが大きく開けている。麓、葛城ヶ岳、16度。壁の透っかい陽光をうけて、食事休憩35分。

峠の北側に出ると、平坦な小平地となつていて、山桜が満開であり、扇形池への小広

近くて遠い山

雲谷山

内田嘉弘

若狭

雲谷山ピークにて



昭和63年から敦賀の山々を登り始め、野坂山、鉢伏山、岩船山、敦賀半島の四方ヶ岳、蜂巣ヶ岳と登ったから、主だった山で残っているのは雲谷山と多田ヶ岳だけであった。その雲谷山、名前から雲がたなびき、谷が深く、遙か彼方の山というイメージを抱いていた。地形図を見ると山頂へ続く横線が長く、高さのわりには山塊が大きいので、我が家からは一泊しないと無理だと思いつけてい

「福井の山150」(増水潤男著)の雲谷山の項に「若狭の国の耳川と鯉川の間には、滋賀との県境から延びてくる長い山脈があつて、美浜町と三方町はこの山なみにより隔てられているのだが、雲谷山はこの山脈にあつて主峰といえる存在だ」と紹介している。また、「登ってみね福井の山」(福井山歩会著)では「雲谷山は、三方五湖で知られる三方町と美浜町との境にある。その西麓に三方右衛門があり、登山口になっている。この本峰は、弘法大師一夜の作と伝えられる片手姫尊で手足のクガや病気に御利益があるそう。大師がこの地に立ち寄られた際に、花園宮に一夜にして観音像を刻まれたところ、もう少しのところまで夜が明けてしまい、右手むけが

刻まれていないことだ。県外からの参拝客も多く、本堂横の御手足堂には、全快した人達が奉納した手足を形取った板が山積みにされている」とあつて、観音川から三方右衛門、ここから左手の支尾根に雲谷山へのルートがあると書かれてある。
5万分の1地形図「西津」を広げて見ると、この山は三方湖の真東に位置し、JR小浜線が雲谷山を中心にして四分の一周しており、雲谷山から南下した横線は△750・9がから二つに分かれ、一つは三十三間山へ、もう一つは大御影山、三十三間山、湖北武奈ヶ岳へと続いている。
この山は、私にとって近くて遠い山だった。敦賀の山では、飯盛山へ15年前に登っている。

たから、ついつい後回しになっていた。家内がどうしても多田ヶ岳に登りたいと言いつ出したものだから、4月の終りの連休に私が気になる雲谷山と家内の気にしている多田ヶ岳に行くことにした。車を購入したばかりだったので、その初乗りでもあつた。愛大テツを後部座席に乗せ、家を出たのが1時半、湖沼街道、若狭街道を抜け国道沿い線を北上すると雲谷山の長い緩やかな稜線が若狭湖へと延びていた。雲谷山登山口・三方右衛門では11時半に着いた。我が家から3時間の道のりだった。

雲谷山への道は本堂の裏からである。暫く



山へは連れて行かなかつたからか、車のドアを開けると、テツは後部座席に山の中を走り出た。道は標高900mの第二展望台まで遊歩道になっている。第一展望台は、名前はくだけて展望はよくないが、第二展望台からは三方湖、水月湖、吉湖が見え、第三展望台まで来ると久々子湖と日向湖も見え始め、三方五湖が全部眺められる場所になっている。息を入れてみると、中年の婦人が一人、腰を揺りながら登つてきた。
ここから先の山道は、はつきりしているから安心して登れる。私達も腰を揺りながら雲谷山を目指した。松、ツツジの灌木が咲き、右側が松林を左に巻き、下ると年代もの大杉があつた。大きく張り出した枝が木陰をつくってくれて、よい休憩場所だ。
もう13時近くになっていたので、ここで昼飯にした。愛大テツはそれを喰ひ付けて私たちにまつわりつく。ソーセージを二本やり、私達はおにぎりや二個煎餅で、出陣した。少し登りがあった、また下ると平らな開けた場所に出た。林の中にシヤクナギが生い茂り、何かホッとした気分にしてくれる。ここから急坂となり今後は縦線に出た。ブナの木の新黄色の若葉が、太陽の光をやわらかい色に染

えて私達に届けてくれる。やがて登りも緩やかになり、登三角点のある雲谷山山頂(786・6m)に着いた。展望はあまりよくなかったが、木々の間から敦賀の名称と言われる野坂山、岩船山、三十三間山が確認できた。下山して三方町のスーパーで夕食の材料を買い、多田ヶ岳登山口(観音ヶ岳の小池)の入り口でテントを張つた。

翌日午前中に家内が登りたがっていた多田ヶ岳に登り、午後は西国第二十九番札所・松尾寺にお参りし、雲谷山(西縁)を往復して帰った。

なお、雲谷山の読み方は、コンサイス「日本山名辞典」(三省堂)では「くもたにやま」とルビが振つてあるが、「登ってみね福井の山」では「くもたにやま」となっており、「福井の山150」の雲谷山の本文には「福井県の地名」を引くと、この山名にはくもたにやまとルビが振つてある」とあるから、「くもたにやま」と読むのが正しいと思われる。
(平成元年4月29日歩く)

△コースタイム▽三方右衛門(40分) 第三展望台(1時間40分) 雲谷山(往復)
△地形図 2万5千1:3万
5万1西部 20万1東岸

鈴鹿一のジャイアンツ

御池岳・藤原岳天狗岩

鈴鹿

酒井賢治

鈴鹿山脈北部には北西から東南方向に向
け約300mにわたり大きく傾いた御池山塊
は、緩やかなカーブを描く扇状の台地であ
り、中央に位置する御池丸山は1224mで
鈴鹿山脈の最高点である。山塊最北の寄生
峰・鈴ヶ岳、扇状根の頂点・鈴北岳、南端
ドーム状の庚の平、クマ笹の緩谷・池の平、
ボタンブチの太杉林など目立つところが多く、鈴
鹿山系第一の巨大さと美しさを誇っている。
昨春はじめ、テレビで地元関係者によるこ
の山塊の春山整備のニュースを見て久し振りに御池岳に登ってみた。

9年前の晩秋に初めてこの山に登った時
は、バスで大岩ヶ畑に入り御池谷より鈴北岳
まで登ったが、時間に余裕がなく最高点を踏
み越すまで登った。

に入る。御池谷の清流を左にみて緩やかに登
ると、林道はすぐ左に山道となり、谷も石灰
岩特有の伏流となる。山道と石の谷道が交互
するなか前進すると、まもなく谷は二重とな
る。左の谷に水流の音をきき本谷と思われ
るが、御池岳へは右の谷につづらねた道をゆく。
このあたり新緑の樹々が美しい。やがて傾斜
も急になり、樹間の山道をくぐり登り高度
を稼ぐ。

登るに従い伏流の谷は扇状に広がる山の斜
面となり、所々に石灰岩のカルンを見る。
ようやく背後に扇状根の御池山塊が見え、
山容を見せはじめ。ここまで登ると御池は



まず、扇状根を強烈なクマ笹のヤブをこ
いで無難登頂。かろうじて鞍掛峠に下りつき、
終バスの時刻を気にしながら大岩ヶ畑に走っ
たことを思い出す。

さて、例によって巨岩マイカーでの日帰り
登山。午前4時半、大岩ヶ畑のマイカーで自
ら出発。阪奈道路で奈良市に出て国道163号
163号、信友街道、307号と走り進んで
多賀町に入り、307号を大岩ヶ畑に向かう。
道路は右の新トンネルも出来て以前に比
べ半分整備されている。この分だとの長い
大岩ヶ畑から御池谷出合いまでのアップローチ
が折れるものと思いきや、大岩ヶ畑の少し先
で大上川北谷（黒谷）の大規模な河川改修工
事が行われており、自動車はストップ。ここ

まだ新芽のままで、石灰岩の多い道を登りま
す。鈴ヶ岳と鈴北岳の鞍掛峠に立つ。

道途中に折れ、まず鈴ヶ岳へクマ笹をかき分
ける。少して灌木の道となり8時半前に頂上
に着く。扇状根に灌木に覆われ今一つである
が、少し北側に下ると木立ちも無くなり、低
く石垣が積まれた平地に出て展望が開けた。
近くに御池山塊が望み、横たわり、その後
ろに伊吹山が大きな山容をみせ、白い輪郭線
を所々につけた多雲の山々、湖北、湖西の
山々が眺められた。地図に標示の電波反射板
が無いところをみると、この平地はどうやら
その跡地らしい。

8時45分鈴ヶ岳出発。元の鞍掛峠に下り再び
鈴ヶ岳への登り。パイケイソウが迎う一面に
新緑を呈している。斜面を登るとそこは一面
のクマ笹の海。緩やかにつづらねたクマ笹の
中のプロムナードを歩き、9時15分鈴北岳に
着く。クマ笹が刈りこまれた平坦ピークの展
望は360度全周。北面の扇状根に加え西側は
扇状根が大きく広がり、その向こうに比良連
峰が連なっている。目前に池の平、日本庭園
を望下ろし、御池谷核心部の山肌が緩やかに
カーブを描いている。東側は若老山塊の全景
が堪能でき、背後に扇状根の山容が広がった。
扇状根の裾に広がるクマ笹が刈り込まれ、長

展望スケッチ 1143m鉄塔ピークより御池山塊



で水刃を自送り、歩くことになる。
百々丸尾橋出合いはうっかりすると左の谷
道に入りそうになるが、ここは右へ河床につ
けられた工事ののびた道に一旦下り、少し上
つて旧道に出る。橋を渡り黒谷左岸につづら
れた広い地道をゆくと、約30分で御池谷出合
いの鞍掛峠に達し、道標に導かれて右の林道

一本の線となり、鞍掛峠の方向に下っていく。
以前に比べ随分歩きやすくなった。

9時30分すぎ鈴北岳を後にする。日本庭園
の一角より左に折れ、クマ笹の道を緩やかに
下る。真の池を右にみてクマ笹を漕ぐ。真の
谷源流で道標に従い右へ御池丸山への明るい
扇状根を登つてゆく。この辺りからぼつぼつ
登山者と出会う。一刻して多くのカルンが
露出する丸山に到着。展望は灌木もありません。
多くの登山者が休憩している。丸山は素晴らしい
今日最大の目的地ボタンブチを日指す。扇
状根を出ると再び一面クマ笹の大草原で、前
方には奥の平の丸いドームを見る。途中より
道標に従い右へ折れ、骨太のクマ笹のヤブを
漕ぎ、10時30分頃ボタンブチの大断崖に着い
た。さすがに鈴鹿一の無敵地、南から西、北
方向にかけ180度の大パノラマが展開した。
眼下には御池川の支流を成す山と谷が、羊
腸の如く自在に入り込み、複雑な地形がよく
わかる。近く、ミンガクから南に派生した支
線線上に天狗岩一際鋭いピークを掲げている。
鈴鹿主峰は近くから鈴ヶ岳、鈴北岳を前に
鑑ヶ岳が堂々たる大きさを誇っている。次に
いくつかのピークを越えた釈迦ヶ岳が続
き、四見岳と御在所岳が一つの山塊を成して



ボタンブチより鈴鹿中・南部の山々を望む

瀬木とクマ笹の海しる感も無い道を少し下つて、右へ廻り込むように登ってゆくと、カレンの群石もみられ、やがて瀬木峠の中の三五路に着いた。右・天狗岩、左・猿山荘を示している。右に折れ、少しで瀬木帯を出ると明るい山道で、すぐ天狗岩北部の平地に着き、南の瀬木帯に印がかり入ると、カレンが多く露出した天狗岩の岩壁に出た。東、南方向に展望が開け、正迎ま前に藤原岳西尾根と磐石門谷が急傾斜で真の谷に落ち込み、その向こうに藤原岳西尾根のピークが見慣れぬピラミッド型で控えている。その背後には鈴鹿手標の山々が遠望にも見えている。

15分休憩後の13時40分、天狗岩を出発。先程の三五路よりまっすぐに藤原止社を目指す。山荘までは瀬木、クマ笹、カヤトの混じり合った平らな明るい緩急路で、約20分で藤原山荘に着いた。小屋の回りには草を焼くが如く、登山者や子連れハイカーが休息をとっていた。深田久弥氏ではないが、私も混雑する山ほど苦手で、腰紐を調整し、早々に大目戸への下山道に目を向け、

よく踏まれた道を足元に注意しながらただひたすら下山する。歩きながら考えた。「今日の行程は後半少し欲張りすぎた気がする。白船峠からは、まっすぐ坂本谷を下るべきだった。

た。その方が最後まで神妙な山歩きが楽しめたのではないかしら。しかし、11時43分の鉄塔ピークからの御池岳展望も無視できないし、……とするとあの鉄塔ピークから左へ分岐していた坂本谷への道を下山するのが、ベストではなかっただろうかと一度と反省した。

15時すぎ三岐鉄道・西原原駅に到着し10分乗の富山行きに乗車、車窓からみる藤原岳は、あんなに多くの人が入山しているとは思われないほど静かな山容で静えていた。大自然の中の人間なんて、本当に蟻のようになっけな存在なのだ。

(平成4年4月26日歩く)

△コースタイム▽
 大岩ヶ畑(40分) 御池谷出口(60分) 鈴ヶ岳・鈴北岳の鞍部(鈴ヶ岳往復25分) (20分) 鈴北岳(60分) ボタンブチ(80分) 白船峠(70分) 天狗岩(20分) 藤原止社小屋(70分) 西原原駅(20分) のコースの場合、白船峠からは一般的に坂本谷を下山すべきで、私のような豪快な歩きはかえって損をすることになる。なお、ハスの湯、近江鉄道・多気駅から8時台前半の大岩ヶ畑行きに乗車すること。

△地形図▽昭文社「1:25,000 伊吹・藤原」
 2万5千1:25,000 藤原・竜ヶ岳

いる。この山塊の右に更雨岳と雨ヶ岳が双耳峰のシムレットをみせ、更に清水の頭、細向山と連なっている。そしてこの山塊に開かれた釜淵川源流の山々が細く流打っている。背後は御池丸山から奥の平にかけて一面のクマ笹の海。昼食と地図を持って展望を楽しみ1時間ほど大休止は願く間に過ぎ去った。

14時30分、ボタンブチよりもと来た道を引き返す。再び身丈以上もあるクマ笹のヤブを登る。道がはつきり凹状になっているのでササをかき分けるとより滑った方が歩きやすい。途中まで下って来た人と統合せし、お互いにびっくりする。無心にヤブを滑いでいると、その昔で人の存在がわからないのだ。

緩急路に返し瀬木帯に入り、丸山の手前で道標に従って真の谷へ下降する。多くの登山ブループと出会う。コケルミ谷からの登山とよく。明るく急傾斜の谷道を20分ほど歩くと、真の谷に着き、左にコケルミ谷道を分れる。

瀬木の筋線の中、石坂岩がゴロゴロした谷を任意深く下ってゆくと、やがて谷水も流れはじめ深谷となり、ペンキやテープに染められて右へ左へと踏み跡を捨てる。岩壁は異なるが、どこか雨を浴びたクラ谷に似ている。谷道の所々にカタクリの花を咲かせていた。谷を下るにつれて横間より御池岳の長い後縁が象の

背中のように見え、頭上を圧する。全く果れる程大きな山体だ。谷は大きく開けやがて白船峠への分岐点に着いた。感じのよい広場と草薙地帯だ。

道標に従い白船峠への坂道を登る。午後の陽が射す疎らな樹林の山道でとても歩きやすい道だ。右斜面は穏やかな傾斜で真の谷に下っている。12時40分白船峠に着く。

私にとって初めての白船峠。展望は無いがいかにも晴らしい峠だ。幾人かの登山者が木陰で休憩している。

さて、ここからは坂本谷を下るのが一般的だが、藤原のよい私の足は南へ藤原岳への緩急路に向いてしまった。鈴から右へ再び山道を登る。登るに従って右側斜面から御池岳がせり上がる。左は眼下に養老山北や奥井川上流の田園風景が広がる。登りきると鉄塔のある1143mのピークに立った。ここからの展望も素晴らしい。近くに鉄塔を思わせる巨大な御池山塊がどっしりと立っており、下部には真の谷がV字状に切れ込んでいる。今日歩いてきた行程が手にとるようだ。御池山塊の左右には朝から見慣れた山々がまた別の山容を見せていた。

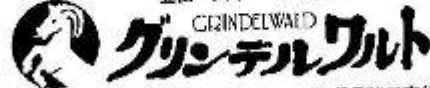
鉄塔ピークで、左に坂本谷道に合流する下山道の道標をみるが、まっすぐ緩急路を進む。

地域に合った品揃えを目指しています。

三重県唯一のプロショップ

登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。

登山・スキー・アウトドア



営業時間 AM10:30~PM6:00 毎週月曜日定休

三重県四日市市諏訪町13-3 TEL 0593-54-0627

近畿の名山 100

宮崎 日出一
阪上 義次

この度、海蔵ながら、私達近畿の名山100を選定し、これを公表すると共に、皆様方の御好評を伺うことにしました。
関西の山を愛する一員として、このリストが契機になり、特定の山ばかりに熱中し、今はかえりみられることの少ない山にも、一人でも多くの人が愛されることを期待して発表するものであります。

近畿の名山 100の選定にあたって

今「日本百名山」がブームであり、全国各地で何々山山という本が発行されている。昭和6年に「東京付近百名山」がハイキング・ペンクラン著で発行されているが、これが百名山で最も古い本の一つではないだろうか。

かつて、毎日新聞に連載された近畿百名山というものがあつたが、少し地域的にかたよつていて北部や西部の山がもれていてという欠陥があつた。そこで新たに選定してみた。基準としては、歴史・山容・高さを加味してみた。もちろん地域的なバランスも考慮した。各府県の最高峰はすべて入れてある。
最後のつめこ選から入れた山もある。ほんとうの山好きの人から見れば、良い山はまだ多くある。無名の山を追及するのも、良いものである。あえて、選定したのは一人でも多くの人が、多くの山に登つて欲しいからである。

平成4年11月選定

26	学能登山	1002	森見山	菅野
27	俱留尊山	1003	名張	俱留尊山
28	古光山	903	名張	俱留尊山
29	住原山	1004	名張	大和野
30	野井崎	800	板井	初瀬
31	馬ヶ岳	1005	丹生	宮前
32	三峰山	1006	高見山	登壇
33	高見山	1007	高見山	高見山
34	龍山	1008	高見山	大見生
35	津木屋山	1009	大谷ヶ原山	大和杣木
36	迷岳	1010	高見山	七三市
37	古方丸山	1011	大谷ヶ原山	高見山
38	仙代ヶ嶽	1012	大谷ヶ原山	大杉峡谷
39	白檜岳	1013	大谷ヶ原山	大和杣木
40	山ヶ岳	1014	大谷ヶ原山	大谷ヶ原山
41	龍門岳	1015	龍門岳	尾瀬
42	龍門岳	1016	龍門岳	龍門岳
43	山上ヶ岳	1017	山上ヶ岳	龍門岳
44	福村ヶ岳	1018	山上ヶ岳	龍門岳
45	大宮野	1019	山上ヶ岳	龍門岳
46	八尾ヶ岳	1020	山上ヶ岳	龍門岳
47	八尾ヶ岳	1021	山上ヶ岳	龍門岳
48	八尾ヶ岳	1022	山上ヶ岳	龍門岳
49	八尾ヶ岳	1023	山上ヶ岳	龍門岳
50	八尾ヶ岳	1024	山上ヶ岳	龍門岳
51	八尾ヶ岳	1025	山上ヶ岳	龍門岳

52	鳥帽子山	904	新宮	新宮
53	大谷山	1102	栗原川	木守
54	法師山	1103	栗原川	木守
55	冷水山	1202	龍神	龍神
56	牛廻山	1203	龍神	龍神
57	龍潭壇山	1302	伯耆子岳	龍潭壇山
58	伯耆子岳	1303	伯耆子岳	龍潭壇山
59	清浄山	1304	川原河	紀伊清水
60	白鳥山	800	龍木	龍木
61	生石ヶ嶽	800	龍木	龍木
62	龍門山	700	龍木	龍木
63	和泉城山	800	龍木	龍木
64	岩瀬山	800	龍木	龍木
65	金剛山	800	龍木	龍木
66	大和野	800	龍木	龍木
67	二上山	800	龍木	龍木
68	生駒山	800	龍木	龍木
69	龍門山	800	龍木	龍木
70	龍門山	800	龍木	龍木
71	愛宕山	800	龍木	龍木
72	比叡山	800	龍木	龍木
73	武奈才岳	1000	龍木	龍木
74	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
75	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
76	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
77	龍谷才岳	1000	龍木	龍木

78	長老才岳	900	龍木	龍木
79	青葉山	600	龍木	龍木
80	太鼓山	600	龍木	龍木
81	磯砂山	600	龍木	龍木
82	大江山	600	龍木	龍木
83	東床尾山	600	龍木	龍木
84	妙見山	600	龍木	龍木
85	龍ノ山	600	龍木	龍木
86	氷ノ山	600	龍木	龍木
87	三雲山	600	龍木	龍木
88	後山	600	龍木	龍木
89	日名倉山	600	龍木	龍木
90	龍門山	600	龍木	龍木
91	龍門山	600	龍木	龍木
92	龍門山	600	龍木	龍木
93	龍門山	600	龍木	龍木
94	龍門山	600	龍木	龍木
95	龍門山	600	龍木	龍木
96	龍門山	600	龍木	龍木
97	龍門山	600	龍木	龍木
98	龍門山	600	龍木	龍木
99	龍門山	600	龍木	龍木
100	龍門山	600	龍木	龍木

(注) 山名の読み方は紙面の都合で割愛した。
連絡先 574 大東市津の辺町9-15
阪上義次まで0720-178-6818

25	大洞山	1010	名張	俱留尊山
26	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
27	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
28	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
29	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
30	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
31	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
32	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
33	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
34	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
35	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
36	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
37	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
38	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
39	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
40	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
41	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
42	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
43	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
44	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
45	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
46	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
47	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
48	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
49	龍谷才岳	1000	龍木	龍木
50	龍谷才岳	1000	龍木	龍木

京都北山

ほんまのはなし (その3)

北川 裕久



第11話

ヤブ山秘話

北山の大部分はヤブ山であるため、この山城を歩く一つの手段として、ヤブ道ぎを覚悟しなければならぬ。地形図と磁石を使って目的地の位置を踏破した時の喜びは格別だ。この項では、私流のヤブ道ぎを紹介しよう。

私は、ガイドブックの調査のため、3月下旬の下旬生えのない残雪期を選んで、北山北部の調査に出かけた。京北町の男鹿峠から向大無峠を經由して佐々里川流域へ下り、カヤン谷から樽橋谷山（カヤンダラ）を經由して再び

男鹿峠へ戻るといふヤブ山コースである。男鹿谷伏道は、かなり奥まで並びており、当時雇用していたオンボロ4WDで最奥まで入る。

かなり荒れた谷拾いの道から離れると、杉林のつづら折れになるが、残雪が所々にあって非常に歩き辛い。高度を上げていくと、やがて尾根筋が見えてきた。椎木林は明るくて、真に春を告げるがごとく新芽を吹き始めていた。暖かい日差しに包まれながら、ポイントとするひとときが、陽春の山並みの良きなのもしれない。男鹿峠の北側斜面は茂草され、杉の苗木が植林されているが、展望は良く、河内谷の切れ込みまで立体地形図を見るように、尾根には道があり、北側の斜面を幾分下

ラパスきみにつけられている。

私は、高根上の比較的大きな木や、要所要所の見過しのよい木に、停つてきた赤テープや赤布を取り付ける。もともと尾道を間違つても、この尾根のどこかを間違え、巻き道へ戻れば良いのだから、これは安全策として大切なことである。大体、地形図を見れば判るのだが念には念をと、以前、同じような地形で迷つたことを教訓にしたのである。今ではもう、かなり杉も成長し、眺望がきかないかも知れないが、当時は北山北部を望む大展望台であった。それが、南水無峠の分岐まで続いていた。さて、ここからが予想していた通りのヤブ道ぎとなる。小さなザックには、オリジナルのヤブ道ぎ用具が入っている。使い古しのロングスパツツやスキー用のゴーグルに風通しの穴をいくつもあけたもの、それに膝をついて歩けるように、パレーボール用のひきパツト。手には軍手をはめ、カマナクを持ち、小形のノコギリも取り出しやすしの腰の位置に取りつくる。ツバのある頭巾を深くかぶって、タオルで首筋を巻き、八段やダニの侵入を防ぐ用意ができれば突入体制完了である。身支度を済ませて、いき突入！。「いや、ちよつと待て？ ヤックを走らじらん！」気が荒つてくる失敗である。連れがいたら教えて

くれるが一人だとまづはいかない。以前、尾根道の尾根筋で、ヤブ道ぎで目的地にたどり着き、タオルを出さうと酒のザックに手を掛けたが……ザックがない。1時間あまりのヤブを戻す気がしなかったため、私のザックは一週間、尾根筋のヤブの中でコヤシと化した。単独行だと、ついつい焦りがちになるので落ち着いて行動したいものである。

南水無峠まではネマガリダケの密生する尾根で、ちよつと佐々里峠から大段谷山付近の尾根と同じようなものである。道からは、緑の芝生でもあるように見えるが、そんな場所が、ネマガリダケやクマザサの茂る濃密なツッシュである。南水無峠付近には当然落葉も目印となるテープも全く無い。

パンパシノ、ピキピキノ、人間とは思えない行動で虫をかき分けるが、がむしやらに突き進めばよいのではなく、少し姿勢を低くして



男鹿峠

ヤブのまばらな部分を透かして見る。昔の峠道なり尾根道が途切になった所は、下生えも幾分まばらなものである。次に、ネマガリダケやクマザサをナタで切り落としながら進むが、この時、解めに切つてはいけぬ。切り口の先が尖つて危険なため、必ず横（水平）方向に切り落とすことを心掛けない。斜め切りは、ナタを振りおろすため切り易く、力もさほどいらぬが、後進者や往路を戻す場合には、針の山を歩くようなもので大変危険である。後から訪れる者への心配りは口の控である。

南水無峠は、深いヤブの中で合生を送つていた。さすがに時の厳寒は辛もまばらで凍肌が見えていたが、峠道は完全に自然の中へ消滅していた。所々に残るザラメ状の雪はまぶしく、陽春の日差しは時の情と共に、久しぶりの米客を歓迎するかの如く、暖かい日差しをつくって私を抱んでくれた。

第12話

悲しき残雪の風景

昭和59年1月、話は第11話の後半の続きとなる。同年3月下旬、八丁川周辺に数十分の

腹が甚だしく死んでいることが新聞に報じられた。その年は初年に全く積雪量が多く、北山北部の北側斜面には、5月上旬まで所々に残雪があった。

さて、南水無峠を佐々里川へ少し下る。これも深い笹の斜面であるが、雨溜りのため残雪はほとんど無かった。

歩いていると、しばらく前から少し気になつてきたが、動物性のおいが鼻につく。どんな場所でも山を歩いている、土や樹木のにおいとは別の何か脂臭い鼻につくことは、誰でも経験のあることだと思う。その場合必ずや近くにマダモシがあったり、何かの動物が近くにいたことを示すものである。その動物性のおいには時の鋭敏を下るにつれ、鼻先に変わつてきた。腐った肉の酸っぱい臭いで、これは近くは動物の死体があるのではないかと、思い、足元に気を配りながら下つて行つた。無数のハエやシブシブ私のはきで一斉に飛び立つのを見るや私は、ハッと息を呑んだ。

巨の前の谷の谷間に、一面のメス鹿が死んでいた。周囲の木をかじつた跡があり、深い雪の中で食糧を求め、餓死したに違いない。まだ死んでさほど日数はたつていないだろう、かなりやせ細つてはいたが、背までは露出してはいない状態だった。私は付近の笹を刈

り取ってその鹿の死骸にかけてやった。それから再び谷沿いを下ってゆくと、今度は折り重なるように二頭の鹿が死んでいた。その一頭は比較的大きなオス鹿であった。そして、もつと痛々しかったのは、二頭の親鹿から少し離れて、連直するように死んでいた子供の鹿であった。いずれも死期は、先程のものと同様ならぬと推測された。

私は、大自然の猛威をまざまざと目撃してしまったのである。

そして、佐々里方面からの林道に出合い、予定を変更して、しばらく北水無峠を目指したが、北国にある破綻の道は見あたらず、がわしやらに谷のフツシメへ突っ込んだが、幾度も滑らかく墜れ上った土は脆く、足場がなかなか確保できず、思うように進めない。20分程進んだ所で再び動物の死骸を見た。これは、かなり月日がたつていたので、何の動物か判別できなかったが、体長40〜50センチぐらいのもも、深い雪の中も又、深い雪の中も死したのだろうか。

美山の山中エサ求め

18頭の死体確認

木の皮かじり…力尽く



豪雪無情 シカ集団餓死

もうこれ以上、北山の動物死骸を見るのがいやで私が進まなかった。私は佐々里方面から釜ヶ原を経て、八丁林道沿いの鞍谷へ入り、掛橋谷山を経由して桐歩いた男鹿峠の尾根に橋路の歩を刻んだ。それから一週間の後、朝記した八丁川周辺の鹿の集団死の記事が京都新聞で載

茶 通信販売

くつろぎとやすらぎのティタイムには
やっぱりお茶が ティバッグが便利です。
山へお持ちください。ご家庭でもどうぞ。

1. 煎茶	3g	500円	1000円	2000円	3000円
2. ほうじ茶	3g	500円	1000円	2000円	3000円
3. 玄米茶	4g	500円	1000円	2000円	3000円
4. ワーロン茶	4g	500円	1000円	2000円	3000円

●お茶は上質の茶葉にこだわります。お茶の味を最大限に引き出すために、お茶の抽出温度や抽出時間を厳密に管理しています。
 ●代金引換・クレジット・銀行振込・郵便振替・コンビニ決済・現金決済が可能です。送料は別途お見積りいたします。
 ●お茶の品質を維持するために、お茶の生産地や生産者を厳選しています。

茶 専門店 いっしょに

TEL: 03-3581-2370

第13話

ある女性とのめぐり逢い

もう10年以上も前の話になるが、毎週のように北山へ出かけていた頃のことである。その女性というのは、年のころは30歳ぐらいで、いつも目撃りにしては大きな荷物を背負って、始発のバス・ターミナルからはほとんど乗車せず、北大路通りや上野茂待社付近のバス停から湖川バスに乗り込んでくる。ミニオのオレンジ色のザックが印象的で、どこかよつと影のあるような女性に見えた。私は、バスの運転から彼女を目して、「又、今週も山歩きか……」とそのワールドさに感心した。

そんなある日、それは3月22日だったと記憶する。私は花背原の雲取山を目指して、京都バスに同乗のバスで、「花背原」で下車した。偶然にも、彼女も降りて下車していたらしい。私は自分だけだと思って、「一先、雲取山を目指した。就寝が難しく、快晴の空には春の陽光が満ちあふれていた。

シャリ、シャリと履物を踏んで雪をかき分け、△△坂を降り切ると雲取峠である。あの柔

らかくやさしい日溜りの中で揺れる世の葉は、山そのものの表情であり、山が響りかけてくる一音である。これが山とのコミュニケーションなのかもしれない。昔から足根をトラバースして雲取山の山頂に至る。展望のよい山とは言えないが、この榎木はとも徽細な印象を受けた。20分程度歩いていると、今登ってきた道から、いつも気づいていた女性が見え始めた。彼女が「こんにちは」とあいさつするので、私も「こんにちは」とあいさつを返した。バスの車窓から見ていた印象よりも、ずっと明るく感じた。お互いにこの光のルートを話し合っていて、私が先に山頂を後にした。「お先に……」

三ノ谷を下り、芦生から魚谷へ入った。魚谷の入り口付近でちょうど昼になったので、私はコッヘルでアルファ米の調理にかかった。食事をしているとき対岸を彼女がよつと笑いながら通り過ぎていった。その後、どこで彼女を追い越したのか、魚谷峠で休憩中、またまた彼女が後から登ってきた。二人で北山の話をしながらしばらく休憩した。いつの間にか話が弾んでいた。

その後、私は手帳合を下り、彼女は鹿尾谷のルートを取った。帰路の途中、ずつと彼女の姿を覚えていた。いつの間にか、彼女の

律動の魅力に引かれていたのかもしれない。私は「岩屋敷」のバス停へ到着後、もう一度彼女と目が合ってしまった。「お出立までのお道をおたがひ。急ぎ足のため、お出立までまだ彼女の姿はなく、しばらく待った。彼女は、祖父谷経由の私が先に出合機に居るのを見て、足の早さにビックリしていた。そして、山の話しながらバスを待った。

まあ、いつでも会えるからと思いついて、名前など何も聞かなかった。それから何日か北山へ通ったが、朝のバスには彼女の姿は見えなかった。たまたま行く方向が違い、会えないものだとばかり思っていたが、その間にも私の思いは募るばかりだった。

そして、とうとう雑草「山と雲取」のたずね人へ「お電話をお願いした。発着日から数日して、彼女からの手紙が届いた。いつもは読まない雑誌だが、偶然この欄を見たことであつた。

それからは二人で北山へ何度も出かけた。私より三歳年上の彼女は、福井県出身で京都の、ある雑誌の専任で暮らしていた。又、京都では比較的大きな山岳会に所属し、サブリーダーをも務めているという、山に關しては私よりずつと先輩であつた。ロッククライミングや冬山、沢登りなど登山の分野を

すべて知り尽くした。「おぼちよつとしたエ
キスパートであった」。

私は、彼女に彼女に引かれ、ついに津島とな
る女性に彼女を遊んだ。

二人の意志は固かったが、彼女の母親が全
面的に反対した。福井県の深い山村で生ま
れた彼女は、三歳の時に父親を亡くし、母の
手一つで育った。二人の兄と一人の姉、そし
て彼女の四人で母の養育を助け、幼い頃の思
い出は優美のことばかりだといふ。見るから
に静かな気のない素朴な女性だった。彼女は反
対されるがままに一度は実家へ帰ったが、私
にも知らせず、家を飛び出してしまい親戚中
が探し回る始末となった。親戚が慰めお給
のある日、ひょこりと息の家の前を通りか
かり、母が呼び止める程中に知らせて一応落
ち着いたが、再び何も言わずに放浪の旅に出
てしまった。

彼女の母親も精神的にかなりまいつてしま
い、ついに二人の結婚が許されることになっ
たが、彼女は再度へ行つたのか全く見当がつか
ず、途方に暮れる毎日だった。

ちょうどその頃、私は会社を退職し、ガイ
ドブックの調査、執筆を請け負っていた。
そして10月の初旬だったと記憶する。JR
の博多駅から鉄道警察を通じて私の家へ電話

が入った。彼女は一文もなく、実家へは連絡
してほしくないと言うので、私の家へ連絡が
が連絡してきた。彼女には家から連絡が
出ていたからである。

その日の夕方、彼女は新幹線で京都駅へ着
いた。私は、彼女に何も言わず片棒と同じ金
幣を渡した。

その後、いろいろと話し合ひはあったが、
一九八四年十一月二十日、二人だけの式をあ
げた。山に關しては、彼女から学び取るもの
が非常に多かったし、私自身のプラスとなる
ことばかりだった。

そんな彼女も、今は二児の母親として毎日
を精一杯生きている。

この海には、家族四人で北山へ行けるとい
いのだが。

第14話

私に北山以上の 魅力を与えたもの

我々期から新緑に移り変わる約三ヶ月間
は、一年を通じて、下生えも少なく程度の良運
しも良いので、一番釣を釣い時期である。

ザックより重いカメラや三脚等の機材を抱
き、北山の山中を歩き廻るのが私の休日の日

程となっていた。

六年前の4月のある日、伊豆半島から八
丁半への鎌倉ルートを行っていた時のこと
である。こんな遠の無計画な釣を多くのは
余程の山好きか、アマゴイワナの釣り人々
らにである。この伊豆半島には途中に海が
ある。この海で釣り人に出会った。その
人の釣り方というのは、ちよつと変わった。海
た、オレンジ色の太い紐のようなものを前後
に環状に環へ投げ込んでアマゴを釣って
いるのである。

エサをついていく様子もなかったが、何や
ら米の先にはカゲロウのような虫がついてい
た。よく見ると、魚はその虫を食べて水中か
ら飛び出し、虫についているらしい針に掛か
るのである。「変わった釣りですわ」と私が尋
ねると、その人は「この釣りは、フライフィ
ッシングと違って西洋の手紙釣りですよ」と
言われた。

その当時、私は釣りなんぞに全く興味が無
く、北山の釣を歩きた。釣りに行くより乗
しかつたし、生きがいの一つだった。

その釣りは私に、自分で着いた毛刺を見
せてくれた。アルミ製のフライボックスには
カゲロウの成虫を模したフライヤ、トビクラ、
そしてそれらの幼虫やまきまきに至るまで、見

事なまでの出来栄であった。何やら、耳出
本を見ているような気分になった。人間でも
まもたまされるような出来栄のだから、魚を
だますのはイチコロだろうと思つた。

話を聞くと、毛刺は鳥の羽や動物の手つ
くるといふ。数ある釣りの手法の中でも一番
特殊なもので、一般の釣り具店では毛刺は取
り扱っていないそうだ。私は、フライを見た
とたん、ものすごく興味を持ち、しばらく釣
り方について話を聞かせてもらった。まあ、
私も多趣味な方ではあるが、山歩きを除いて
は、みんな、ちよつとかじりで、ほつたらか
しである。

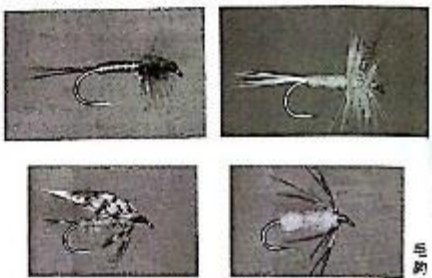
ところが、このフライフィッシングだけは
私を大きく変えてしまった。今まで、あんな
好きだった北山歩きと写真はここでフツツリ
と遠切れてしまい、カメラはボックスにし

てある。

つたまま、ザックは押し入れに入れたまま、
フライフィッシングを始めてからの一年間、
全く北山を歩かなくなった。とはいっても、
行き先のすべてが北山の谷であり、山の経路
は忘れられた。

今度は、カメラの代わりにフライロッドを
持ち、北山の渓谷を歩き廻った。釣り上げた
ヤマメやイワナは全部返してやるのが、こ
の釣りのセオリーで、その時、イギリスの貴
族の間で楽しまれたスポーツフィッシングの
しい。釣るまでの過程を楽しむもので、ちよ
つと高級な釣りでもあり、現在、趣味の王様
とまでいわれているのがフライフィッシング
であるという。

私は、北山に興味を失くしたのではない。
釣りに北山より魅力を感じ、それに没頭でき
る面白が、とても楽しいのである。



毛刺

鈴鹿の山と谷(6)

西尾 芳一著 A5判・三七〇〇円
仙ヶ岳・野登山・那須ヶ原山・油
日岳ほか―鈴鹿南部には深いな
いが、しっとり溶けこむような山
旅が待っている。全6巻完結!!

兵庫丹波の山下

鹿佐次盛一著 四六判・二〇〇〇円
一多紀郡の山―丹波の篠山をめぐ
る多紀アルプスをはじめ一〇〇余
山その全域を各山地図付きガイド
上巻(氷上郡の山)好評発売中!!

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎京都 075-751-1211 〒606

私の心は完全にフライフィッシングに奪われてしまい、ここ数年間の山行と「おぼあちちゃん」は、新ハイキング社から依頼を受けたコース調査ぐらいのもので、プライベートでは全く北山を歩かなくなっていました。

しかし、北山の深谷は以前にも増して魅惑的でした。今まで知らなかった谷へも、フライフィッシングを楽しみながら、入渓することになった。また新たな分野から北山を知ることができたので「二十二年」である。

誰かが、こんな事を口づけていた。「山を愛する者は、山へ登る」と。私も、もう少しいろいろな分野から北山を原直し、そして、遠廻りをしながらでも、再び新たな北山の魅力に引かれ、私の心の故郷、北山の山中へ降りたいと思う。

第15話

おぼあちちゃんの形見

私の祖母が亡くなったのは、今からちょうど二十一年前の3月13日であった。九十一年の人生をまうした祖母の死に顔は安らかに、今でも顔に焼きついている。病院生活の長かった祖母が、私に残した最後の言葉は「高い所

へ登ったらあかんえ……」であった。

高い所、すなわち、山である。当時22歳だった私は、北山に対して構造的な態度で、次々といろいろなコースを歩き廻っていた。

私の祖母も生前、近縁な逢合で、私の好きな顔は、いつも乳母車で一日中、子育てをしてもらっていたらしい。

そんな祖母が亡くなり、形見分けの時だ。私は「おぼあちちゃんの財布がほしい」といった。財布といっても、ちよっと厚めの端切れを山着袋風に縫い合わせただけのものだったが、この袋から小さい時、よくおこたかいをもらったものだ。袋の底は、襦袢の重みですり切れ、今にも裂け目がはちぎれて、お金が飛び出しそうなものであった。私は、この袋を山歩きの時のお守りがわりに、小物入れとして使っていた。

足尾谷を發行した時のことである。谷を中間ぐらいいまで溯り、左岸の岩をへつろうと、水中に足尾谷を確保しようとしたが、台風の後だったので水も増え、水量が多く、崖も滑り、険しい渓谷と化していた。いつも足を伸ばす所に岩の突起がない。思うように行動できず小さな突起に足を滑らせたが、水の勢いが強くバランスを崩して小滝の淵へ転落。洗滌まで流され、全身ずぶ濡れ。こんなことなる前巻

き道を取ればよかったと後悔した。

その時まで振っていたカメラは、ナイロン袋に入れていたので無事だったが、先程の逢合を終えた顔のフィルムは、おぼあちちゃんの山着袋にそのまま入れていたので、もうだめだろうと思っていた。そして水が入った重いザックを開けてみた。

ザックの中味を一つ一つ取り出した。巾着袋は水で濡れていたが、中を見るとフィルムまでは水が入っていない。すぐにナイロン袋に移し変えた。高巻き道を取り、最終的には尾瀬へ出た。林道の橋の下で、ナイロン袋に入れておいた袋に驚愕して驚愕に看いた。

何故、布の袋なのに中に水が染み込まなかつたのか私は疑問に思っていた。濡れ袋、ちよっと山着袋を水に浸けてみた。乾いた目からは少しずつ水が染み込んでくるが、袋の布は水を弾いている。これは長年、おぼあちちゃんが使っている間に、手の脂や垢が染み込んだのかも知れない。

後、そのフィルムに写っていた渓谷の写真真一点が、あるフォトコンテスタの入選作品となった。

現在、その巾着袋は何処へ行ったのか見あたりません。この話を聞いたのをきっかけに近く、身辺をくまなく探そうと思っている。

京都北山

やぶ漕ぎ痛快山行記 (6)

早春の残雪に遊ぶ ツボクリ谷から皆子山

朝から曇りつない快晴の例年、出陣脚、取巻バス停は朝ノ大行きで山入りするたぐさんのハイカーで混雑していた。我々の仲間も22名、随時バスに分かれて乗車、出発。途中のバス停から車を追加で本日のメンバーは24人の大所帯だ。

足尾谷で下車したのは我々24人のみ、リーダーより後援、人員点検。女性が多いので急遽サポーターを3名入選し、9時足尾谷バス停へ出発。

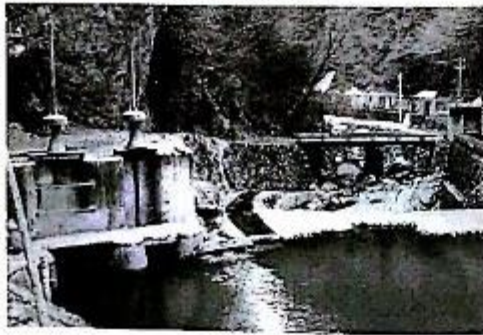
貴客の下、風の無い足尾谷(戸火谷)林道に注意が凝ってつき、キシキシと水を割る音に耳が心地よい。この谷、今日からアマゴ釣り解禁日、先行の釣り人の足跡が残雪の上に

京都北山グループ

残る。開水水溜り付近で釣り人と話を交わすが、遊遊二匹で一日の久松杉林だけでも釣れたらばと口にする。

林道終点から先、今日は誰も入っていない。先日来の踏み跡以外は靴の残雪。その上に昨夜の新雪がまぶさりフレッシュ、雪景色の口にも早春がそこまできてきている感じだ。しかし油断は禁物。右岸に渡る角材一本橋は凍りついていてツルツル、トツパを預かっていたのでスパイク長靴で漕り落し、ロープを張って足尾谷一番目の渡河、全員難なく渡河する。渡河は益々深くなるが、トレースが誘導してくれる。左岸へのし字型の株木丸木橋の渡河、ここでも凍りつき危路千万、真ん

近池水原電閘足尾谷



中を巨岩に確保してもらい、ロープ伝いでここもナンジャラホイで左岸へ。トレースが急道を含合への滑落に注意しながら足尾谷通行。ホイホイでトツパを行き、フリ谷の橋を右岸へ渡る。後ろから「又間違えなせえ」との声、引き返し、左岸沿いをK.R.A.Cのトンガリ根根の小屋を左下に見ながら西進する。尾越への分岐からツボクリ谷へ左に下りる。こここの渡河個所、前回は靴を脱いでの水浸

山と高原地図シリーズ

定価 各100円(税込)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 北アルプス縦断 | 34 飯倉山 |
| 2 白馬岳 | 35 碓氷・山形三山 |
| 3 奥奥州・奥奥州 | 36 高尾山 |
| 4 妙立山 | 37 越前・山形三山 |
| 5 上奥州・奥奥州 | 38 奥州・奥奥州 |
| 6 奥奥州 | 39 八幡平・奥奥州 |
| 7 奥奥州 | 40 十和田湖・奥奥州 |
| 8 中央・奥アルプス縦断 | 41 二戸・奥奥州 |
| 9 不登雪・奥奥州 | 42 大雪山・奥奥州 |
| 10 奥奥州・奥奥州 | 43 白川 |
| 11 奥奥州・奥奥州 | 44 奥奥州・奥奥州 |
| 12 奥奥州・奥奥州 | 45 奥奥州・奥奥州 |
| 13 奥奥州・奥奥州 | 46 奥奥州 |
| 14 奥奥州・奥奥州 | 47 奥奥州 |
| 15 奥奥州・奥奥州 | 48 奥奥州 |
| 16 奥奥州・奥奥州 | 49 奥奥州 |
| 17 奥奥州・奥奥州 | 50 奥奥州 |
| 18 奥奥州・奥奥州 | 51 奥奥州 |
| 19 奥奥州 | 52 奥奥州 |
| 20 奥奥州 | 53 奥奥州 |
| 21 奥奥州 | 54 奥奥州 |
| 22 奥奥州 | 55 奥奥州 |
| 23 奥奥州 | 56 奥奥州 |
| 24 奥奥州 | 57 奥奥州 |
| 25 奥奥州 | 58 奥奥州 |
| 26 奥奥州 | 59 奥奥州 |
| 27 奥奥州 | 60 奥奥州 |
| 28 奥奥州 | 61 奥奥州 |
| 29 奥奥州 | 62 奥奥州 |
| 30 奥奥州 | 63 奥奥州 |
| 31 奥奥州 | 64 奥奥州 |
| 32 奥奥州 | 65 奥奥州 |
| 33 奥奥州 | 66 奥奥州 |

※このシリーズの「山と高原地図」は毎年更新されています。山と高原の情報は年々更新されています。最新の情報は必ずご確認ください。また、このシリーズの「山と高原地図」は、山と高原の情報を詳しく掲載しています。また、このシリーズの「山と高原地図」は、山と高原の情報を詳しく掲載しています。

昭文社

本社 東京都千代田区九段4-2-11
電話 33-3222(4線) 33-3223(4線)

支社 大阪府大阪市東区1-1-23
電話 06-3335-721(4線)

営業所 札幌・仙台・東京・名古屋・京都・福岡



皆子山付近地図

小休止する。河畔にはネコヤナギが大きく根玉をふくらませ、水辺に草の季節の到来を告げている。

平発バス時間(宮部バスまで)1時間もあり、林道を二五々に分かれ、血液浄化にトオンを胸一杯吸い込みながら安曇川沿いを平の集落へと歩く。バス停には我々のみ、ここでリーダーより「お疲れさまでした」といって、飲料のビールがふるまわれ喜んで頂く。バスも全員宿舎で、湖畔の花前トンネルをくぐり、すっかり暗くなった大深谷駅を徒歩についた。

平成4年3月8日歩く

△参考タイム▽

出陣御前駅 45分 足尾谷橋 8・45分 9・00

ツボクリ谷 出陣 10・30 トチの木広場 11・30

11・40 皆子山 12・25 14・30 寺谷登山口 林道 16・00 16・20 17・00 17・24

登山口 御前駅 18・25

△地形図▽ 2万5千1:1花背

5万1:1北谷

昭文社 京都北山(京都北山2)

(昭文社 山口宿舎)



花折峠より見た奥の皆子山

かりの苦難、今回は生木の丸太が並べてあり、河とか脱がずに渡河できると思っていたが、生木は水でパンパン、転倒確実。こんな事があると思つて、2人の再村を、途中で調達してこまで担いできたのが功を奏し、補助ロープとで難なくツボクリ谷に渡ることができた。

ツボクリ谷に入ると、益々残雪が深い斜面の道は危険がいっぱい。雪がなければ足踏りのコースだが、皆子の北側だけに雪が深く、本

日の星の数は、トップは安全確保のため、後続との間を閉じて前進する。右岸左岸へと岩壁を越え、最後の岩壁の左岸への岩壁を、巨岩をこいで、最後は岩壁に注意をあたえながら先導する。トチの木木の安全確保に到着。トップ集団の4人と後続者とは相違離れてしまった。早く安全確保を来てほしい。休憩をとる人が待つ。2人も人並みでツボクリ谷登山に行、水した方があり、岩壁を登ったこと。たいしたこともなく到着。

ここからツボクリ谷本流と別れ、左の支谷沿いの急登斜面に取りつく。高度差にして約200分の雪の斜面。3人が逆コースで降りてきた。トップをささん交代し、彼らの降り降りたルートをとって登るが、岩壁を登り強いられる。アイゼン持参もこの雪質では効かず、キックステップで黙々と登る。後方本立と感じに道下二番目の標高を持つ峰床山が八丁高原の稜線の上に登るのを見る。もう後ワシビツと頂上を、先行女性の後を追う。12時25分頂上到着、パンザイ、ミスナラ、クヌギの葉を落とした橋木だけの山頂。東面のみが大きく展望し、北見連山の後姿を見る。パノラマ台地。雪が花を押しよけての大雪山、24人の大所帯が赤々々々なる真真正正な場を眺

供してくれる。これで登山の難力(登山)に恵まれて、あの登山の苦難を忘れさせてくれる。いつもの登山火と、24人の枯れ木並めは早い。円座の中心に大炎を上げてツボクリ谷登山の行水相のズボン、靴下もいっぺんに乾いてしまう早急の山頂。みまじしやや共同通でのラーメン作りと賑やかなこと、24人の談笑が度下最後峰にこだまする。

2時間以上及ぶ大休憩を終え、後半のコースに予定していた皆子谷から二谷峠までは止めと決定。トレースの残雪を踏んで、下山に意定して出発。下山のトップは目まぐるしく変化する。南斜面に変わったので雪が降りだす。アイゼン持参の方は用心のため岩壁。下りは足元も滑りやすい。長い列もクラングと安曇川源頭に引き込まれるように降下する。横林帯に入りトラバース道は雪谷の渓流道に出合い、雪も消えて歩きやすい。安曇川に架かる板橋を渡り林道に出た。

皆子谷下山コースを変更したことは良い判断だった。皆子谷、寺谷コースとも冬期は登降に難いもあり、今日のような大所帯ではとうてい無理。今日の例会は好天に恵まれ早急の皆子山山行を堪能した。全員無事下山はサポーターの協力のお陰と喜び合う。

林道でスパッツ、オーバーソックスをはきし

コース探検

今日は、万葉集がいつぱいの北山ノ辺の道に遊ぶ。横井から天理への16が「山ノ辺の道」の古道になっていて、奈良から天理にかけての山沿いの道は北山ノ辺の道と呼ばれ、ほどよく点在する史跡や古寺が一種の絵のようになり、四季それぞれに美しい。難路を歩くのが好きでないという人におすすりのハイキングコースである。

近畿奈良委員会下車。寺田が彩を映す露池。露池。から近賀直哉旧居の残る高畑へ向かう。若草山が望めるお寺に立つ。ここで完結された「昭和行進」がくつと昭和に感じられる。新薬師寺へへと続くこの道は、奈良の町なかでもひとときを待たせた気配を見せている。春は日差しを浴びた朝焼けの土壁にも、歴史の深い壁が刻まれているように、古都の情緒を残す道である。

新薬師寺は、高田山の麓の境界が急に開けたところで、さびげなく残る。長い橋を延ばして建つ白蓮の本堂が、天平の盛時をしのばせる。堂の内には、天平彫刻の傑作といわれる十二神将が、暗闇のなかに木彫菩薩如来を守っておどろかすに立っている。薄暗い本堂の瓦敷の床が妙に冷たい。秋は秋が庭に咲き散れ、古いお堂とよく似合う。

みどりの うつらまごころ
いにしへの やまどくにほら
かすみであるらし 合津八一

奈良市夏草寺跡は新薬師寺の西隣にある。パンフレットには「この寺遺跡は、奈良の写真家・入江善吉氏から生前の全作品の寄贈を受けられたものを機に建設したもので、もちろん西日本では初の写真専門の美術館になりま

す」とある。入江さんの作品は感動し、入江さんを偲び、ティールームでお茶を飲む。コーヒーカーンや砂型は赤膚焼の作品。奈良の魅力が、さらに色濃くもたてていく。新薬師寺からは高田山麓を野道が南へと続いている。その向こうに見える美しい集落の高台に白雲寺がある。もと志智尊子(天智天皇孫)の山荘であったと伝わる。秋の寺とも呼ばれている。秋、可憐な花が石段の両脇をおおう。石段を登りつめて振り返ると、奈良盆地の眺望は霞れも忘れてしまう。宝蔵の極彩色の厨僧像は見もの。四月の初め頃には、奈良三名物のひとつとして左衛門、五色の権、が取りつけに彩色を添えてくれる。白雲寺の裏は、東山麓。南進し、急な山道を下り、春日奥山ドライブウェイへの道をまたぎ、田圃道に入る。道が曲がりくねって分りにくいため、道標をチェックしながら

歩こう。高田山麓南麓一帯が奈良市西野町。地元では「ロッキョウ」と呼ぶ。

さらに南に進む。新池の場から山麓の道を行くと、広いアスファルト道路に出る。道が大きく左にカーブすると、自衛隊の官舎が現われる。官舎のはずれに小さな道がある。左に折れフェンスの間の細い道を進む。再び野道をたどる。白山比咩神社がこじんまりと祀られている。右に折れ進むと式内社の磯田神社が鎮座する。その西方に池を前にして無名天皇陵(八雲陵)がある。光仁天皇の皇子早良王は桓武天皇の皇太子の位につくが、藤原種継暗殺事件に加わったとして藤原太子となり、淡路島に流される途中、餓死して命を断った。その後後病が流行し、藤原太子のたたりといわれたので、崇徳天皇を毒殺し、この地に手厚く葬られた。

左に折れ行くと田圃寺。俗に山形御殿と呼ばれ、大和寺三門跡寺院のひとつ。長い松並木の参道を行くと、いつの間にかやうあたりはうって変わって、桃の花咲く山並といった趣。「神城遺跡」わずかに屋根をのぞかせている茅葺きの本堂も、木圍りの松までも、尼寺らしい優雅さと気品をたたえて、たな海まり返っているだけ。

折れて正薬師方面に行くと、よく手入れされた田圃寺墓地がある。ここまで来ると、俗世間はほのかに遠い。右折する。竹藪、松林、雑木林と続くと、春でも落ち葉に埋もれた石段にでくわす。叶を越すと思いがけない急な山道。アスファルト道に出たら右折。桐茶屋から右に進み、高畑の聚々をぬけると火の見やぐらがある。右折して田圃道をゆくと弘仁寺につく。近賀直哉が本尊で、十三歳になった子供が智恵を授けりに参詣する十三まいりて有名だ。

白川瀧池の東側を通るのが東海自然歩道。西側の堤を歩くのが山ノ辺の道。道標に従い名取園道の高架下をくぐる。ブドウ畑の中にあたりと折れがある。雑草をかきわけると植類を通り道道に出る。豊田山城跡の標識を左折し、天理駅の施設の裏を進り抜け、影燈

ゆかりの形留の高橋を渡り、梅のトンネルをくぐる。

石上神宮は、深い深い森の中。苔むした石垣も、優美な社殿も、きわめて袖移り。檢皮葺の垂香な参門、やさしい造りの拝殿。境内の摂社、すべてが古く古の歴史に埋もれてきた。神楽の中、天孫降臨と神武東征にあたって、国土を平定したという自平の剣(布都御魂)を祀り、百濟から献上された七枝刀が取壊された布都社の歴史が、老樹の中でまじろんで

参道をまっすぐ西に出ると、森が急にひろげて、天理寺の全堂が眼前に広がった。初めて天理を訪れた時は、一瞬その異様な光景にとまどった。天理教本部、その周辺に立ち並ぶおやさとやかの軒、それらは巨大な瓦葺きの建物で、宗教学部市大進徳待の景観を作り



- 近鉄線奈良駅→奈良駅 4800円
- 近鉄天理駅→難波駅 5600円
- 地形図 2万5千11奈良・大和郡山 問い合わせ先
- 志賀直哉旧居 0742(26) 6490
- 見立 310円 9時~15時30分 木曜定休
- 新薬師寺 0742(22) 3736
- 奈良市写真美術館 0742(22) 9811
- 観音寺 9時30分~17時 月曜定休
- 白雲寺 0742(26) 33992
- 拝観300円 9時~17時
- 弘仁寺 0742(62) 9303
- 拝観300円 7時~17時
- 天理市西ノ原遺跡 074336(3) 1001

山の春の陽

特選 コースガイド

- ① 箱館山
- ③ 三星山
- ② 大納言
- ④ 武奈ヶ岳



爽やかな春風と新緑に誘われるように山に入る。ひと汗かいて、暖かい日だまりを見つけ、谷水を飲んでコーヒータイム。

芽吹きの道 (音響北山)

うららかな春風と新緑に誘われるように山に入る。ひと汗かいて、暖かい日だまりを見つけ、谷水を飲んでコーヒータイム。

急ぐでもなし、これといつと白目的のピークもない。ただ何となく真なりと歩き、足を止めて春景色に酔っている。

春のこんな山歩きが少なくなった。京都市北山を歩いてみよう。アプローチは谷沿いが多い。深流の瀬音も勢いよく、新鮮な気分にしてくれる。フキノトウが顔を出し、イタドリやウドの新芽が土をはたいている。

雲ヶ畑辺は春を感じれるコースが多い。長い祖交谷林道を歩いて「浅敷ヶ岳」へ。南にそのまゝ逆戻りして下るか、北へナベタコ峠方面へ向かい、城丹回境に足を延ばして大森峠から大森集落へ出て、藤原峠越えと岩屋橋へ戻る。又飛騨から芽吹の雑木林をかき分けての尾根道を「魚谷山」へ歩く。幻想的な柳谷峠からホソガ谷を過って白旗へ抜ける。詩林峠からガラノ坂道を南へ下って水室へ下る道もよい。タムシバの花吹く道である。

花室から登山峠を越えて、一ノ谷から「写取山」へも春の息吹がきいっばいコース。裏取峠や山頂の広場は格好の日だまりだ。一ノ谷か三ノ谷を下り、音生へ抜ける。昔畑へ出てみよう。旧花野峠へ江回して、地蔵さんにあいさつして鞍馬へ出てみよう。花野や音生など絶好の山頂の風景は、昔と変わらぬ風情で春を感じさせてくれるだろう。

たのしい山歩き

尾瀬雑考⑨

「尾瀬に生きる人」

松下 満

尾瀬に目を惹き始めて40数年、その間に知り合った人は数々にいとまがない。山小屋にも、下田地区の教軒を除いて全て宿泊した。その昔山小屋の主人とランプの灯りの下で岩屋を肴に神楽の酒を酌み交わし、夜の更けるまで語りあったのも懐かしい思い出。いまはこんな光景を想像しますがもなないが。

山小屋の名前で錯覚を、行動する人を昔も今も見つける。尾瀬ヶ原赤田代地区に温泉小屋と五福山荘がある。温泉が湧いていて、24時間入浴可能と思えば宿泊の予約をする人

下田地区に泊まった人が、ちよつと温泉にとタオルを持って赤田代へ向かう。残念ながら、二軒の山小屋は、23時の閉寮を加算しているいわゆる経営で、入浴時間も他の山小屋と同様に夕方のみである。

平成元年から尾瀬の山小屋は、完全予約制となった。産で寝たとか、階段に腰かけたまま眠ったとかいう話の込みがなくなり、宿泊客には嬉しいことである。

私が親しくしている人に、星フク子さんがいる。シーズン中、尾瀬宿屋で「宿屋そばや」を営んでいる女主人である。昭和41年に前経営者より経営を引き継ぎ現在にいたっている。槍枝坂村名物「煮ちそば」を作り続けて何十年、この手打ちそばはさすがに旨い。難言い、そば打ちを自認する私は、このそばを食べる楽しみのために尾瀬に行くというものである。

この店の隠れた名物に「ハットウ」がある。そば粉と餅米を細り合わせ板杖に延し、3×5cmの大きさに切り、ゆでて「ゴマダレ」で食すだけの素朴な味である。その昔、岩城國の隠棲者が槍枝坂村に於てでになられたとき、村人が何を差し上げたらと思案の末の食物である。ひと口食した隠棲者は、あまりの美味に「こんな美味なる物を下じもの者が食するのはこ

法障である」と仰せられ、その後「ハットウ」の名で親しまれたとか。こゝを通りかかったら是非その美味なる「ハットウ」を賞味して欲しい。また忘れてならない物に「しるこ」がある。地元で獲れた小豆をこたく、長時間煮て作った、秘伝ならではの味。左京にもお推めしたい。この女主人の旦那さんは、槍枝坂神社の宮司様には欠かせぬ人であったとか、お会いする機会がなかったのが残念である。

いまこの店にはフク子さん、息子の隆雄さん、利恵さん夫妻、その子の旭君(二歳四ヶ月)がいる。

利恵さんの手記の中に、「11月下旬お店を閉めて下山するとき(冬期は槍枝坂村上ノ台に住む店に手を交わせ今は亡きお義父さんに、今年一年間、お義母さんと私達親子をお守り下さって有難うございました。そして、雑ヶ岳に向かい、家を守って下さいと祈るのです。壁を見ると恋しくなるのです。あの下に住んでいるんだ……」と書かれています。フク子さんの外孫の一人「望ちゃん」今年小学5年生になるお嬢さんは、尾瀬の花を摘みながら、大人も舌も巻くほど花の特長をつかんでいる。私は望ちゃん、旭君を尾瀬の孫と思っている。そして嬉しいことに二人は私を「大飯の爺」と呼んでくれる。

「コブシ咲く静かな

箱館山

はこたてやま
初級コース(★)
演 田 啓 司

湖北のスキー場で知られる箱館山は、琵琶湖の北、滋賀県高麗郡今津町のすぐ北西に位置する。

冬の期間はスキーヤーで賑わうが、雪が消えて春になると元の静けさを取り戻す。箱館山以外は殆ど人が入らない山だからのんびりした山歩きが楽しめる。

4月中旬の日曜日に箱館山に出かけた。J R湖西線の近江今津駅からバスがある。三谷下車、ここから箱館山の頂上までには15分程度。しかしバスは回数が少ないし距離もそんなにないのでタクシーに乗る方がよい。運賃は二千元以内だ。

車窓から箱館山のロープウェイの小屋が見えている。161号線を西に曲がってすぐ箱館山へ向かう。管理事務所前の案内板でコースを見て出発。芝生のスキー場を抜けてBコースに向かう。葉落とした雑木林の中に、コブシの木がたくさんあり、白い花が満開だ。途中ですれ違った人が「Aコース良かったよ」と言っていた。何が良かったのかと思っていたがそれは問もなくわかった。

スキー場から第一エッセツテを通り、山道を北に行くと展望台に出る。軒坂の山々が眺められ、足下に静かな山の初・処女湖(八公湖)も見える。この湖は淡海湖とも呼ばれ、中に小さな島がある。この付近から下はシャクナゲが多く見下ろせるが危険だ。



箱館山の駐車場に着いた。琵琶湖が見えるこの駐車場は、冬の日曜日は満員になるが今は車の姿はなく広々としている。大きな桜の木が満開で、花びらが風に舞っていた。

駐車場の北側の小道が登山道だ。落ち葉が積もった道に入る。取っ付きからジグザグのかなりきつい急坂が続く。やがて道端に濃いピンクのイワカガミの花が見え始めた。あちこち勝手に群生している可愛らしい花に急坂のしんどさを忘れてしまった。更に登ると、今度はピンクのショウジョクバカマが見え始めた。濃い色のももある。こんなに沢山のショウジョクバカマの群生を見たことがない。

汗が出てきて半袖シャツになって登る。登り始めて40分ほどで第一リフトの終点の平坦部に出た。ここで一息入れた。道端ががががってぼんやりと雑草が見え、その中に竹筴島が浮かんでいる。気がつくとは高麗山に変わっていた。

山道の鞍部から左にそれて、暗き跡をたどり箱館山の三角点に向かう。分岐は明りにくい。箱館山の標高は5477で1等三角点があるが、スキー場より低い第一リフト終点のすぐ西のブッシュの中で、山頂ではない。また見通しも利かないので訪れる人は少ない。

処女湖への急な下り道にさしかかると、道の両側や左右の雑木林の中に白いコブシの花が満開で見事な光景だ。まるで白い綿をまき散らしたように、枝は木ばかりの林の中に白い花が咲いている。赤いシャクナゲの花も色どりを添えていた。

昔の足が止まった。写真撮影の忙しさに、足元は処女湖が雨に打たれて見えている。静かな湖の周囲の山肌は、シャクナゲやコンシ・山桜の花が咲く風景に、幻想的な中にも静やかな力強い春の息吹を感じた。



取水塔を左下目撃、湖岸の山道をたどると、ミヤマカタバミの白い花やピンクのイワウチワの群生があった。素晴らしい花の中で、またまた足が止まってしまった。湖畔の小さな小川の橋で休憩した。深き通った水が流れ、山菜がたくさん生えていた。

湖畔に沿って歩き、小川を渡ると林道に出る。右に取ってしまおうと歩くと平池だ。平池は林道に沿った静かな池のようだが、足音が泉のようだった。

元の鞍部に戻って頂上の小屋を白けて急坂を登るとスキー場だ。枯れた草の中にコブシの花が咲いている。琵琶湖が見え、湖畔の今津付近の町並みがぼんやりと見えている。雨が降り出し風もあり寒い。ロープウェイ見晴台の中で昼食をとった。



コブシの花咲く箱館山にて

箱館山一帯は琵琶湖国定公園に指定されている。スキー場は芝生の広場で、駐車場からロープウェイで登れば約5分だから、コースを選べば家族連れも楽しめる。ここにはヒメツツミもたくさんあるがスキーシーズン以外は開いていない。

スキー場からは琵琶湖や伊吹山・湖北の山野が一望出来、竹生島も目の前だ。マイカー利用を便利だが、休日の湖西の道路は混むので北線自動車道木ノ本インターから湖北を回る方法もよいようだ。

新三角点の

大納言

だいなごん
中級コース(★★★)
慶佐次 盛一

真海沿線草津駅を出発した草津線上り列車の右側の直線には低い山並みが続く。阿星山693・1峰、大納言596・1峰、飯道山664・2峰の三山である。阿星山はこの三山の最高峰で、おまけにN.T.T.の巨大なアンテナが建っているからすぐにそれと判かる。飯道山も堂々たる山容だからすぐにそれと指さるだろう。

しかし阿星山と飯道山の中間に位置する大納言はピークらしいピークでもなく、新しく建ったアンテナがなければ、なかなか同定のしにくい山である。それほど大きなアンテナではないが、新しく建ったアンテナのお蔭で最近ではすぐに同定できるようになった。ところが山頂にあった596・1峰の三角点が高

移動してしまった。もちろんアンテナ建設のために山頂は削られ、大納言山頂の標高も変わっているのだから、大納言山頂の現状と移動した新三角点を探してみようと三草駅で下車した。

三草駅前を左折、旧草津道を西へ歩くと、今は車が走るたんなる草津だが、旧街道の面影をどことなく残している。10分余り歩いて、大納言から流れてくる荒川にかかる八橋を渡り、東郷道から離れて左折、草津線の踏切を渡る。この辺りには大納言山麓の妙徳寺への古い石の道しるべなどが残っていることから、昔は妙徳寺への参道だったのだろう。

昔の参道も今はゆるやかな坂道が続くアスファルト舗装の車道である。勸修野の立派な神社を右に見送り、西山園地へ向かう。左には烏ヶ嶺が平坦な面を見せているし、進行方向には大納言山頂のアンテナが見える。

妙徳寺の草津を抜けて小さな社を通り過ぎると、右に樹房制菓の表が見える。もうここからは覚悟地帯となり、アスファルト舗装も切れて林道となる。しばらくは黙々と林道歩きだ。左に妙徳寺沈黙池の施設を通り、大納言山頂とシリメキ林道を分ける244mの標高点が打たれた一俣で、左の大納言林道を進む。

登った時には、赤い旗がひるがえっていい良い目印になった。林道を先へ歩き、左の山肌が押られて階段状の細い道が付いている所が新三角点への取り付きで、数分で新三角点に着く。昭和58年10月25日に移設された新三角点で、標高は593・3mである。マンツナピークよりは低いけど、なんとなく頂上でいきなるとは、飯道山や高旗山などが見える。くれないが、飯道山や高旗山などが見える。

下山は新設の林道の林道を東へたどってみた。飯道山などが見える展望林道で、やがてアセボク等の所見の草津に合流して、ゲートがある所へ出た。ここから見送りのバス停へは長い林道歩きだが、通過する車も少なく、ゴルフ場の道を通り、山井出の村を抜け北側の北貫路のバス停までのんびり歩けるだろう。



大納言付近地図

- △コースタイム▽
- 三草駅(1時間20分)大納言草津線終点(50分)
- 旧三角点ピーク(10分)新三角点ピーク(25分)
- 車道(50分)飯道山(30分)北貫路(バス停)バス40分 石山駅

△地形図▽ 2万5千1:1三草



大納言新三角点にて

目の前に見える建物は大型コスポーツクラブで、ここから上は、なんの建築物もない静かな植林帯に包まれた荒川沿いの林道の林道である。

林道は、2万5千地形図の黒塗線で示されている末梢が終点だった。数台のシベリカが止まり、荒川の両岸が荒々しく削られていた。防防ダムの建設が、あるいは林道工事かもしれない。この現在位置確認は慎重にしたい。

地形図には、林道終点から大納言西北の河に登って行く破線で描かれた道がある。沢状の地形に描かれていた破線路に入ってみたら、もう飯道山のかたちまち倒木や伐採木に進路を阻まれて、仕方なく右側の扇根に取り付いた。尾根の上には踏み跡程度の道があり、破線を忠実にたどるよりも行儀ははかどるだろう。ヤブもあるが大したものはなく、踏み跡が途絶えても磁石を頼りに尾根通しに登ればよい。

（2）の花（2）

アマチャ (Hydnangium Seriale)

コキノシロ科 (Strophogaster)

毎年四月八日には全国各地で大群のアマチャが栽培される。インド・中国で原産の菌類会社に菌種(日産)で輸出する菌種が日本に伝わり、その代用品としてアマチャ使用している。この産地は、長野県では主に大屋十四(六〇〇)年に初めて養蚕屋で栽培が行われている。

甘味成分は、β-D-グルコース、砂糖の1、〇〇倍、サッカリンの約100倍の甘味があり、防腐力もある。しかし生薬に甘味はなく、加水分解するとβ-D-グルコースになる。アマチャは山菜類に属し、一見似てはいないが、初秋、地中根際から根の切り取り、採取葉を水洗い、天日乾燥し、半乾時に湯水取り、一回湯煎(乾燥)の手続きをよく繰り返す。乾燥して白い甘味成分がある。

アマチャは糖原多糖体の砂糖の代用として長い間用いられてきたが、最近では多種多様な甘味成分が抽出できるようになった。それだけ甘味成分が多いというが、ストロブチン時代の新しい甘味である(ストロブチン糖原多糖体)に近い甘味成分を持っているという甘味成分を抽出した甘味成分は、甘味成分が……。

精選コースガイド①

龍神山から
みつしやま

三星山

初級コース(★)
見嶋弘幸

紀南

紀南地方は早くから開かれた山のひとつで、龍神山は、田辺市の北方にあり、龍神山とも言われる。山頂付近には龍神社の拝殿があり、津波津兵、中津津兵、成津津兵の海軍三神が祀られている。縁起によれば、田辺清忠島沖より見ると、北方の頂に不忠義な光が降り、これを龍神として嘆び称えることになったものだろう。また一説には、漁夫が沖に浮かんでいたが、たたりがあるのを恐れて、龍神山上に祠を建立したものとされている。龍神社は、衣尾根参道、龍神谷、佐同谷、上方谷、周辺の村落からの立派な参拝登山道が整備されている。ここでは龍神山から南に延びる尾根道を登る衣尾根参道

を経て、三星山に到着するコースを紹介しよう。参拝道の中ほどには古くから道行く人々を見守ってきたと思われる老木の並木道があり、参道をはむ新緑や紅葉とともに、四季に彩りを添えている。

1 紀伊田辺駅からバスで20分余り、「大西橋」下車。龍神山から南に延びる長い尾根の登山道に立つ一の鳥居をくぐり、みかん畑の間を緩やかに登る。左手に雑木林の静かな風景が展開する。大休場を過ぎれば重華山、龍神山の老木の並木道となり、大きな杉木もよく快道に歩を進める。右手に三星山の峻険な山、ハナレ山等の露出した崖が迫り、その向こうには、どっしりとした山容の高尾山が顔を覗かせている。しばらくして傾斜が切れ、道も狭くなる。急に周囲の地形が変化し、露出した花輪群を縫いながらの道筋となる。左手から柳道、続いて右手から佐同谷道が合流、樹々の間に時の空の静けさを感じ、すくなく道が二分、崎の空の静けさが傍らに立つ。右に登る道は崎の堂を経て、龍神社へ、左の道は龍神参道に通じている。

2 龍神参道に上り、「木社」を登り、及び無縁あり、境内の小池は山鏡なれど大池にも水溜れず、荘田の農民はここにて雨

乞い参りを行う事あり、寛永年間、秋津村の人栗山若木夫の百歳する所と云ふこと記され、ここで木社とある。龍神山参道をゆく



下は田辺河が一望できる崎の堂と呼ばれる岩壁で、岩の間には石仏一尊が祀られている。弘法大師聖徳太子の跡とも言い伝えられ、古くから修法場のひとつとして神聖視されてきた。龍神山の修法は、初心者ではでん、とほぼと健康のものではないと、修法中に空中に放りあげられる。また龍神社は、古来田辺のの宮としても知られ、早稲の年には、両手で大正徳が雨乞いの祈願をしたことが記録として残されている。境内の小さな池は、清水が溢れる事なく、今もなお清々と水をたたえ、隣には大徳記念物指定のクバメガシの老木が神木としてある。

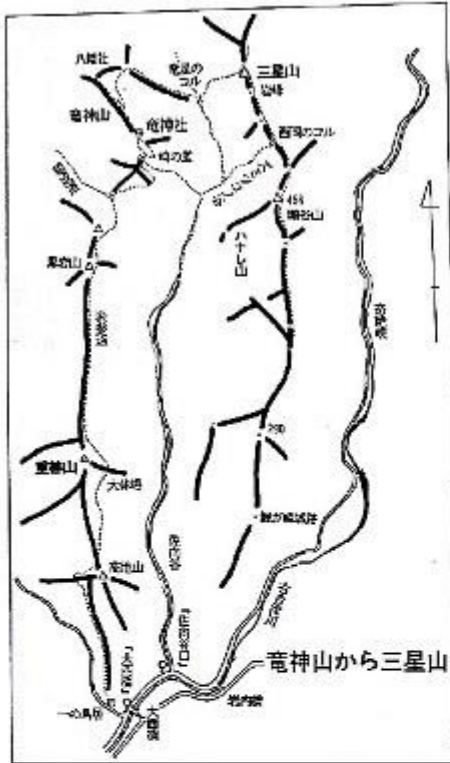
龍神社参道から北に道をとって、すくなくの分岐を左へ、八幡社に立ち寄ることにしよう。断崖の突端に小祠が祀られており、崎の堂向



崎の堂

極寒酷熱しい眺めだ。

先ほどの分岐点まで戻り、左へ三星山に向かう。枯山水の石庭を見るような三星山西面の岩壁群が目の前に立ちふさがってくる。三星山と龍神山の最終鞍部、十字路となる龍神のコルに降り立つ。道を進んで世々昔の跡面を木の根を頼りにスリルを味わいながら道筋を急登する。コルから40分余りで左手に古栗谷からの道を含み、三星山主峰に登り着く。眼下に紀伊水産を窺って、遠く四阿の影が浮



- △コースタイム▽
 1 R 紀伊田辺駅(龍神参道)バス20分 大西橋バス停(10分)一の鳥居(40分)大休場(60分)崎の堂(30分)龍神社(70分)八幡社(80分)龍神のコル(40分)三星山(20分)西阿のコル(30分)佐同谷登山口(1時間30分)「佐同谷口」バス停
 △地形図▽ 2方5千 秋津川・紀伊田辺
 △問い合わせ▽
 龍神自動車 0739(22)2100



細川から新緑の尾根を

武奈ヶ岳

中級コース(★★★)
葉 康 夫

比良山系の最高峰、武奈ヶ岳(1214.4m)への登山路はいくつかあるが、ここに紹介するのは、安曇川側の細川から八幡谷と貫井谷にはさまれた支線を中実にとどめて、武奈ヶ岳の頂上直下に達するダイレクトルート。登山者は少なく道標もほとんどないが、それだけにまた、表比良とは趣を異にする静かな奥比良の魅力が味わえるコースである。起点となる細川へは、湖西線の堅田駅から江若バスまたはタクシーで入る。尾根道の途中に水場はないので、バス停の前の酒屋で缶ビールを買ったついでに、その横にある小さな池に注ぐ山水で水筒を満たしておく。

細川バス停から八幡谷にかかる細川橋を南に渡り、民家の間の左へ上る坂道をしばらく行くと、葛原があるあたりで舗装路がきれて杉の植林帯の中の地道になる。2000坪ほどで左に折れる小道があり、これが武奈ヶ岳への登山路である。杉の木に小さな木製の道標がつけられている。まもなく沢筋線の下を通り、1000坪ほど行くと道は二つに分かれ、まっすぐ東に向かつて溝状の道がのびているが、これを避けて右に曲がる細い山道を南へたどる。両側から低木の枝がのび、道をふさぐ倒木等もあり歩きにくい。木の枝に赤いテープの目印がある。道は左に折れてしばらくはジグザクの急な登りが続く。山裾を南にまわり込み気味に高度をあげ、大きな松が目立つようになると辺りが明るくなってようやく杉の植林帯が終わる。まだ若い樹の植林帯を通り過ぎてまもなく、広い稜線に乗り、コナラ、ミズナラ、コシアブラ、タカノツメ、カエデ等落葉広葉樹の中に常緑樹のまじる気持のよい尾根歩きが始まる。道はほぼ上り一方、時に真南に向きを変えたりしながら東南方向にのびている。

標高7000坪のあたり、ややなだらかになったところで、武奈ヶ岳の支根根にふさわしく、ブナが現われる。新緑にまじって、幹の直径10cmから20cmくらいの朽かけた巨木が二本あり、手のとどこかない高い所にサルノコシカケが数個、手のとどこ所には、サルノコシカケを切り取った跡。ルートははっきりしており傾斜もさほど急ではないが、ジグザクのない直登で滑りやすいところも多く、木の枝や岩角をつかんで息を切らしながらの登りが続く。一服して後ろを振り向くと、安曇川をへだてて北西の方向に見える朽木の白岩山(950坪)は、まだここより数10坪は高い。岩の多い急登を上り切って、道は今までの南東方向からやや右よりに南へ折れ、左には武奈ヶ岳から北にのびる主稜線と、その先には黒っぽい緑の約懸崖(1098坪)が見え



武奈ヶ岳山頂

てくる。

幹のねじれた杉の大木や、カツラ(?)の巨木の橋を通り、シヤクナタ林を過ぎて幼杉が目につくようになると、ようやく背後の白倉山と背を並べ、もうひとがんばりして左の約懸崖と等高になるころ、樹齢何百年かの大杉のある支線の門にたどり着く。道はやや右に曲がり、テープに従って右の南側を回り込むと、右に貫井谷の源頭をへだてて見える稜線は、坊村からの武奈ヶ岳西面コースである。

頂上は近い。大きな杉の倒木の下をくぐり、小瀬木帯の中、小枝を両手でかきわけて進む。



最後は熊置のブッシュになり道は不明瞭だが、前の小高いところを目標して東南方向に進めば10分で麓まで出てしまふ。右へたどれば20分で遊楽池のある岩場の小ピーク、特徴的武奈ヶ岳の頂上は目前である。登山者にほとんど出会うことのない静かなコースを歩いてきただけに、山頂周辺の喧嘩にはやうやうんざりするが、そのかわり抜群の厚葉が楽しめる。眼下に広がる穂積原をへだてて先ず目につくのは伊吹山、その右に盤仙山かを南に続く鈴鹿の山々。左、東北の方向には養老連の重畳なる山脈。すぐ北の約懸崖からは、武奈ヶ岳の北稜が比良山系の最北端、蛇谷ヶ峰まで伸びている。下りは、この北稜から、広谷経山(890坪)コースをとることにしよう。先程とび出してきた熊置のブッシュ帯を通り過ぎ、しばらくは目の前に約懸崖を見ながらの急降下が続く。広谷方面への分岐、細川越にある道標に従い、すべりやすい道を注意して降りると阪大ワングル部登山荘の標識がありスタ原に入る。沿原の中につけられた標道を歩き、八幡ノ滝(標高)の源流を何處か登り返して、三酒造山の会広谷小屋の前に出る。まもなくイブルキのコバ・八雲ヶ原方面への分岐点。「左・

大樽経山(890坪)の家内板があり、この道をとる。

しばらく左岸に沿った道は、やがて左側の山腹を巻き気味にゆるやかな登りとなり谷は深さかる。708坪で登りは終わり、あとは広葉樹林帯の中、時折巨大な杉や伏伏杉が現われる下り一方の快適な林間散歩が続く。右に分かれるオカサカ方面への分岐を過ぎると、にわかには言葉が高まり、まもなく上流に二つの流の見えるオウギ谷に突出。流れを横切り、沢沿いに708坪下れば大樽鉢に到着。その名の通りの大きな滝壺があり、丸太を5つも本無造作に束ねただけの橋を慎重に渡って、あとは葉ノ木林道を湖ヶ瀬のバス停まで約50分の行程である。(平成3年5月歩く)

△コースタイム▽

- 1R 堅田駅(江若バス停) 細川バス停 10分
 - 武奈ヶ岳への道標(60分) 平ナ林地帯 60分
 - 小瀬木帯から熊置のブッシュ(10分) 武奈ヶ岳(50分) 細川越(35分) 広谷(60分) 大樽鉢(50分) 湖ヶ瀬道バス停(5分) 若バス20分
 - 1R 近江宮原駅
- 〈地形図〉 2万5千 北小松
昭文社「比良山系」

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 叡電・京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽文学散歩「天朝る難徳太子の道を行く」(西本庄に祈る太子の道) 3月7日(日)集合近鉄八尾駅 中央改札口前10時「ハコ」近鉄八尾駅→太子堂→葛城神社→葛城寺→物部守屋墓→築山寺→古代塚→光徳寺→大正北小学校前→藤井寺(約3.4) 会費200円 交通費別添 講師大阪成蹊女子短期大学教員前田保彦氏、天王寺事業06(624) 0382

▽伊勢参宮本街道シリーズ「東濃橋」(香野西口) 3月14日(日)集合大阪線香野西口大野駅前9時20分「ハコ」空室口大野駅→血屋橋→赤岩→山形峠→被取峠→日輪橋→南河内→松崎→宮野西口→藤原駅(往復約14) 小雨決行会費無料(初参加の方は300円) 定員500名(電話申込み制) 実施日の3ヶ月前から受付、上本町事業06(775) 3566

▽万歩ハイキング「飛鳥から高麗城跡へ」 3月21日(日)集合吉野線飛鳥駅前9時10分「ハコ」飛鳥

阪急

▽万歩ハイキング「聖徳太子ゆかりの地を訪ねて」(太子御廟と河内飛鳥宮跡散策) 4月15日(日)集合南大阪線約ヶ谷駅前9時30分「ハコ」約ヶ谷駅→大宮寺→堂井八幡宮→湯涌寺跡→地蔵大菩薩→推幸徳天皇陵→用明天皇陵→叡福寺→聖徳太子御廟→上太子駅(約12) 会費無料 参加自由

▽聖徳太子御廟の前で御陵参拝集印百紙を進呈先着1400名様

阪神

▽サンスポ1000「ハイク」(西六甲・鶴堂山・栗水山) 3月7日(日)雨天中止(集合新神戸駅前公園) 9時30分「ハコ」新神戸駅前公園→布引谷→布引貯水地→市原東谷→大滝寺→再度線→再渡公園→鶴堂山→天王寺→城ヶ越→菊水山→鶴堂貯水地→神鉄より「叡電」新開地(約13)「ハコ」中級ハイキングの係06(373) 5326

▽第82回健康とふれあいハイキング「ウォーキングトライ」(春の能

勢を歩く」 3月28日(日)雨天の場合4月4日(日)集合豊府ときわ台駅前(宝塚線)西熊鷹口駅で能勢電車乗り換え(中・上級コース) 9時~9時30分、初級コース9時30分~10時「ハコ」(初級)ときわ台駅、妙見口駅前、吉川、妙見橋線(空道)妙見山、新開地、妙見ケーブル下駅(約6.5)時間50分(山道ときわ台駅、吉川、峠、大台山、ドライブウェイ、初谷、出合、妙見山、妙見谷、新開地、妙見ケーブル下駅(約12)3時間55分)

神宮

▽神鉄ハイキング「北神の秘蔵輝風谷」 3月14日(日)集合五社駅10時「ハコ」五社駅→八多→輝風谷→麻尾谷→合→大下→大池駅(約10)「叡電」神鉄観光事業部078(521) 0321

▽神鉄ハイキング「神出神社祭典まつりと磯岡山」 4月18日(日)集合が丘駅9時35分「ハコ」那が丘駅→福岡山→神出神社→祭典まつり→小東町→神出山田自転車道→線が丘駅(約9)「叡電」神鉄観光事業部078(521) 0321

▽神鉄ハイキング「六甲山と紅葉祭典」 4月29日(日)集合六甲ケーブル山上駅10時~10時30分「ハコ」

山陽

▽山陽ハイキング「御津町・梅公園・線部山稲穂」 3月7日(日)集合山陽線御津駅前10時「ハコ」網干駅→稲穂川→川越→朝日→春日社→梅公園→線部山稲穂→山陽網干駅(約14)「叡電」山陽電鉄ハイキング係078(924) 6915

▽山陽ハイキング「高瀬山散策」 3月21日(日)集合手納駅前10時「ハコ」手納駅→手納山中央公園→芝罘山ハイキングコース→本徳寺→西山支坊→参道前駅(約9)「一般」山陽電鉄ハイキング係078(924) 6915

▽山陽ハイキング「須磨寺・おらが山桜花見」 4月11日(日)集合須磨寺駅前10時30分「ハコ」須磨寺公園→おらが山→葛城山→笠伏

○各線認定証交付、当日コースの概略図を差し上げます。市販の北摂の地図をお持ちの方は持参下さい。阪急山の係06(373)

松田敏男 山の版画展

●1993年4月13日(火)~18日(日) 正午~午後8時
 ●平安画廊
 京都市中京区寺町通り三条上る TEL075-231-0694

「彩画山影」 版画・絵画集出版記念の恒展です
 (A4判・104頁 版面41点・絵画21点収録 ふたば書房)

山崎源浦公園(約4.5km) 家来山
山崎源浦公園(約4.5km) 家来山
山崎源浦公園(約4.5km) 家来山
山崎源浦公園(約4.5km) 家来山
山崎源浦公園(約4.5km) 家来山
山崎源浦公園(約4.5km) 家来山
山崎源浦公園(約4.5km) 家来山
山崎源浦公園(約4.5km) 家来山
山崎源浦公園(約4.5km) 家来山
山崎源浦公園(約4.5km) 家来山

大阪から歩き大会
▽第34回大阪一支部35km、飲まない、食べない、走らない
4月25日(日) 大阪一支部35km、飲まない、食べない、走らない
4月25日(日) 大阪一支部35km、飲まない、食べない、走らない
4月25日(日) 大阪一支部35km、飲まない、食べない、走らない

大阪から歩き大会
▽第34回大阪一支部35km、飲まない、食べない、走らない
4月25日(日) 大阪一支部35km、飲まない、食べない、走らない
4月25日(日) 大阪一支部35km、飲まない、食べない、走らない
4月25日(日) 大阪一支部35km、飲まない、食べない、走らない

せせらぎ

たのしかった山行の思い出や記録。四季の自然情報など。常時投稿下さい。
1行15字詰20行以内に。

題字・小林琉璃三

11月13日(日)、晴れ一時雨
青少年交友協会主催の第33回大坂一支部35km、飲まない、食べない、走らないに参加した。かちは「徒」と「遊」の同音異義語で、「徒」と「遊」を飲まない・食べないで歩くこと。
西中地区の近くの新滝川大橋西詰の河川敷グラウンドに1000人程の参加者が集まった。
中高年の参加者が多いと聞いていたのだが、家族連れや友達同士での参加も多く見られた。汗ばむ気候から一転して風が強く雨の降るなか、流川の堤防を歩いた。

10ヶ地点の新潟岡大橋までは、晴速5.7で全体歩行。10ヶ地点を過ぎると各自のペースで自由歩行。記録は5時間38分。二桁の順位だったが、心地よい汗を流した一日だった。(藤田隆幸)

あります。同じ山に一番多く登った回数8回で、比良の武奈ヶ岳と、南アルプスの駒ヶ岳に次ぎ、南アルプスのこの二峰は眺めのすばらしい所です。四季を通じて比較的入りやすいですから、ぜひ皆さんも登ってください。
3000山の山城は、北山、比良、駒ヶ岳、大輪などの近畿地方と奥美濃・南アルプスあたりに限られていますので、今後は少しずつその範囲を広げていきたいと思います。(松田敏男)

サービスチェーン
どこへ行こうか
新ハイ関西サービスチェーンへ

サービスチェーンを利用するときは、電話か往復ハガキで必ず予約して下さい。
③予約のときに料金を確認して下さい。

'93(五)私鉄リレーハイキング
京阪 第1回 4月25日(日) 雨天の場合は4月29日(木)に繰延
琵琶湖を一周 音羽山・上醍醐寺コース(約13キロ)
上栄町駅-長等公園-自然観察の森-源坂山歩道橋-音羽山-牛尾親善-桜の馬場-横濱峠-上醍醐寺(西園11番札所)-女人堂-醍醐寺三宝塔前(解散)-六地藏駅-京阪山科駅
(集合場所)長等公園(京阪線源坂上栄町駅から徒歩10分) ●9:00-10:30
◎京阪淀川線駅弁7: 昼一日: 目的の特色に東車、三楽駅で浜大津ゆき半券に乗り換え

穂高書房刊 阿部恒夫著
『アルプス日記』
A5判・菊河328頁・綴上製本
●念願かないまして、昨秋、日本山書の会よりやっと上梓することができました。値段、荷具送料共4200円、ご希望の方は早目に小生までどうぞ
〒604 京都府中京区壬生御所ノ内町12-19 阿部恒夫
TEL. 075-842-7130

秋友鉄道 クーポン券も
東武鉄道 利用できます
株父 不動の湯
〒3468
埼玉県秩父市山田243-2
電話 0494-2311126
富士登山・富士五湖
東海自然歩道
三田山の嶽
三田山の嶽
サンゴ
〒401105
山梨県真面目郡山中町中野野
電話 0555-6518515
四季降りなす乗鞍高原のハイク
上高地・乗鞍湖へ(冬はスキー
けやき道りと味の宿・日見道
温泉旅館 けやき山荘
〒390115
長野県南安曇郡安曇村長穂高原
電話 0263-9312555

金屋羅山の石柱に彫られたハンブルグ文字に關する私の一文(創刊号掲載)については赤面の至りです。私は私なりにいろいろ調べて書いたのだが、そもそも寫し取った文字が正しい加減だった。

情報を提供する際の説明(印刷や複製でなく、事実をありのままに伝えなければならぬ)ということを知らなければならぬ。この時はその覚悟がもうひとつ不十分だったのだらう。

8号に掲載された橋本氏の文は、調査も行かぬでた密着な文章で感服した。誰がいつ捕ったのかという疑は残るがそれは別のこととして迷惑をおかけした方々には心からお詫言いたい。

その文字を寫し取った「京都北山1」の地図は、いつも私のリュックの中のポケットに入っていて、北山歩きのお供をしている。寫し取った文字は薄くなったとは「目入、今は写り残っている。地図を開けばたび、それは私の目に入り、私へ貴重な教訓を授けてくれるのだらう。

金野耕也(前田孝十)

心待ちにしていた「新ハイキング」関西の山。早速送って頂き、ありがたかったです。

特に「京都北山・ほんまのはなし」は面白かったです。若い日の山行を、あれこれ思い出しながら……。第2話の「道五登山のすずめ」は全く同感で、私などこれで行かなくたってしまったような具合です。

「野々野の木の吏」も大いに参考になりました。もっともっと探検の具体的なお話を書いてほしいぐらひです。

新ハイキングの会に入会して、早10ヶ月になりました。

初めの頃は皆様についてゆけるだろうか、尾手頼りにならないだろうか、と迷惑をかけないだろうかなど、迷惑をかねないところもありましたが、回を重ねるにつれて多分のゆとりができてきた今日この頃です。

平らな道を歩いているとき、ほつと休憩しているときなど、次の道を口にしていく口々に気がまぎります。

1月10日「明賢社から水尻」に参加。ドシャ降りでも行きます、というリリーダ氏の言葉を真切っては無理に思いますが、当日は朝から本格的な雨降り。

急な登りにはあつたものの、気分がいい尾根歩きを楽しむ。嵐雲のいい幾層のある気流で体感。あの向こうが奈良と教えてもらい、ほんまや大仏殿の威光が光っていると言つたもの……。

下りは、この勢が続くとと最先に人等をあら下げられた危うさを感じました。

汗をかたより蒸せる温泉と 寝て牛のシャブシャブ 日本舞の舞臺と山の雪 ハイカーの道 ナガサキロッジ 千代田山 新深田中間道 妙高富原町の平湯温泉 0255518612261	高山の花 深原の花 妙高山と火打山 白木山を二つ巻ける山小屋 黒沢池ヒュツテ 千代田山 21 新深田中間道 妙高富原町 神谷川温泉新下郡 千代田山 1399 04601419041	休養屋敷入浴も歓迎 10名以上マイクバスで送迎 箱根山温泉温泉 箱根山温泉 025601399 04601419041	ハイキング・キャンプに 設備完備公園 朝明渓谷 あさけ茶屋 千代田山 112 510112 三重県三重郡吉野町千代 05931931789
---	--	--	---

しく、足どころも軽い。水底へは予定よりかなり早く到着。地すべりにへんと。とりのすきやさとじーブルで、みんな大満足のニコニコ。リリーダ氏の言葉を真切に写し取って、今後は写り残っている。地図を開けばたび、それは私の目に入り、私へ貴重な教訓を授けてくれるのだらう。

金野耕也(前田孝十)

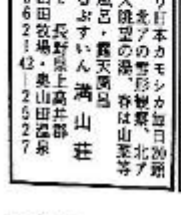
11月10日「明賢社から水尻」に参加。ドシャ降りでも行きます、というリリーダ氏の言葉を真切っては無理に思いますが、当日は朝から本格的な雨降り。

急な登りにはあつたものの、気分がいい尾根歩きを楽しむ。嵐雲のいい幾層のある気流で体感。あの向こうが奈良と教えてもらい、ほんまや大仏殿の威光が光っていると言つたもの……。

下りは、この勢が続くとと最先に人等をあら下げられた危うさを感じました。

前田孝十

幾帳らは知られていない。野味山子午線標を点(重要)を振り、和東町の山へ車でねお遊覧する事が出てきました。標高は一個のロングリリーと標からなり、その上面に鋼索遊道の塔橋と、側面に金属製の名板が取り付けられていた。初めは子午線標に出会って感動しましたが、車で巻かれたので、次回は野味山天橋点から子午線標まで歩いてみたいと思えます。



日本最高位の温泉 (2400m) 立山・菅沼 みくりが池温泉 連絡先 〒9030 前山市五福栄町 07641410436	ハイキングに、スキーに 赤石温泉 石の湯ロッジ バス 山の温泉 平野 03641342421 東京本社・東京都新宿区千代田 120150新北地区 電話 031334110211	黒石山・妙高火打山・徳川山登山・山名湖ハイキング 大自然が奏でる四季の響 日野山 シャンペー 温泉 千代田山 11 02621513171	館内より日本おかしな日湯湖 以上、お国の温泉、北ア 全体の大陸型の湯。春は山菜茶 園、夏は登山、秋は紅葉、冬は あそび、いん 湯山荘 千代田山 11 03621513171 高山村山荘・奥山温泉 電話 02621512627
--	--	---	--

山行計画

新ハイキングクラブ編

このページの山行計画には、「会員に限る」と登記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように入会費を申し込んでください。「登山」のほかに参加名簿に他の資料代を頂くことがあります。山行申し込み後追加できなかった場合は急いで連絡していただく。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料合計50円、夜泊日帰りの場合は2日になり1000円を支出して頂きます。ハガキは1000円と送料を請求します。

死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 5000円
通院保険金 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散時までに報告を申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。
①ビッケル・6本爪以上のナイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを要した山行、②スキー使用の山行、③沢・岩・氷・雪等はんき目的とした山行、④宿舎場所内の事故（詳細は係まで）

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 期日 住所 電話番号 氏名 会員番号 (会費でない方は会員外と記入) 生年月日 緊急時の連絡先

返信用ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

京都北山歩き
期日 3月14日(日)帰り
集合 京都駅前1乗バスのりば8時(集合後徒歩バスにて出発)

コース 京都駅→愛宕山→海又ノ滝→余野→東横山→茶臼山→鳴堂→山国→京都市駅
費用 約4000円(交通費)
地図 2万5千1周山・上野園
係 昭文社「47京都北山」
◎村田博俊 ◎中西恒行 ◎井上保三

申込み T610001 城陽市守田大群10の10村田まで
滝又ノ滝は名瀑のひとつ、東横山(3等670m)から茶臼山を経て山国へ下山します。雨天中止(小雨決行)

南山城・霧峰山(一般向き)
期日 3月22日(日)帰り
集合 京都市駅前8時(集合後徒歩バスにて出発)
コース 京阪宇治駅→湯屋谷バス停→大赤明神→霧峰山(1等点・天利池)→空鉢峠→金胎寺→和東原山

一和東大橋→三国緑林道(子午線踏古)→JR笠置駅(解散)
費用 約2000円(交通費)
地図 2万5千1宇治・笠置山
係 ◎内田嘉弘 ◎三谷忠実 ◎村山智俊

申込み T610001 城陽市守田大群10の10村田まで
昨年9月23日の予定が雨天中止になりましたのでその再山行です。今回は機曾を愛して、1等三角点・天湖点に加え、全国でもめずらしい子午線標も案内します。行場めぐりはしません。雨天決行

京都北山歩き
期日 4月11日(日)帰り
集合 出町柳駅8時(集合後徒歩バスにて出発)
コース 出町柳駅→菅原町→ダンノ峠→刑部町→藤野八丁→ソトバ峠→衣懸坂→音原町→出町柳駅
費用 約4000円(交通費)
地図 2万5千1上野園
係 昭文社「47京都北山」
◎村田博俊 ◎中西恒行 良好、小雨決行

申込み T610001 城陽市守田大群10の10村田まで
近畿西日市駅から山本行きか特快社行きの三交バスで山本(志)・マイカの場合小枝須溪谷山の家駐置き(時刻表参照)
コース 山本バス停→小枝須溪谷山の家→池ヶ谷道→入道ヶ谷→二本松原→流ヶ谷→小枝須溪谷山の家(道コースになる場合もある)
費用 50円(保険代)
地図 2万5千1伊船 昭文社「45和歌山・磯ヶ谷」
係 ◎尾崎英五 ◎新町幸夫
申込み T519003 船橋市大久保町2065 船橋逸夫まで
コース 新緑の谷道を入道ヶ谷へ、展望良好、小雨決行

文学歴史散歩
期日 4月18日(日)帰り
集合 近鉄奈良駅(清水前)9時
コース 奈良駅→新羅橋寺→白滝寺→白照寺→弘仁寺→石上神社→内山永久寺跡→竹之内環状線東落→長谷寺→宗廟天宮殿→柳本駅(駅北口交差点)
費用 約1500円(近鉄雑貨)
地図 2万5千1奈良・大和郡山
係 ◎松永忠一

申込み T580001 船橋市問2の2の22松永まで
万葉集がいつばいの北・山ノ辺の道に遊ぶ。雑踏を歩くのが好きでないという人におすすめのハイキングコース。西大山止(小雨決行)

鉢伏山と氷ノ山(一般向き)
期日 5月27日(日)1泊2日
集合 JR京都駅7時30分
コース (1R巨) 京都駅→八咫野→鉢伏山→鉢伏山→朝日山の家(泊)

新ハイキング社
TEL 03-399-8110
〒114 東京都北区滝野川7-6-13
板橋口 東京 3-14-60-15

あなたのふる里になりたい
スキー場まで歩いて1分
白馬ファミリアペンション
〒399-193 長野県北安曇郡白馬村八和田野
TEL 0266-172-1535-1

八ヶ岳西麓の中心地
58年新築 設備完成 全館個室
木の香が漂う 豪華な温泉 水鏡
オーレン 小屋
1泊2食付き 35000円
4月未11月未開設
〒399-1102 小平 勇
〒399-1102 小平 勇
TEL 0266-172-1279

日本唯一の女人禁制の山(大赤山)
「百名山」の登山口
稲村ヶ丘女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館 紀の園屋 甚八
1泊2食付 7,600円から
〒539-004
奈良県古野郡天川村河川
TEL 0747-61-3309

九州の最高峰・日本百名山
宮の前岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
ホテル 磯辺荘
屋久島空港からバス10分
〒89-1143
鹿児島県鹿毛郡屋久町安房
TEL 099-741-6130-21

東京本社
「新ハイキング」(月刊)
本朝読者のすのすの
東京の「新ハイキング」誌は月刊です。昭和25年創刊で、以来41年間全国のハイキングファンに親しまれています。
関東、甲信越の山を中心に北海道、東北から九州までハイキング情報がいっぱいです。
定額購読を御希望の方は、
入会金 500円
年会費 5400円
で本誌購読をご利用いただけます。
記へお申し込み下さい。

新ハイキング社
TEL 03-399-8110
〒114 東京都北区滝野川7-6-13
板橋口 東京 3-14-60-15

(2日目) 山の家・水ノ山越え・水ノ山・東尾根
 鉢伏口・八鹿駅・新大
 阪駅(解散)
 費用 約1万5千円(交通費・宿泊費)
 地図 2万5千・水ノ山
 係 ○村田智俊
 申込み 4月15日まで通常ハガキ
 で〒610-0101城陽市
 寺田大群10の10村田まで
 さわやかな鉢伏高原で森林浴し
 ます。マイカーの方は12時までに
 直接現地へ。参加申込者には詳細
 を後日連絡します。

比良駅14・51―京都駅15・50(解
 散)
 皆さんたいへん熱心にスケッチ
 をしました。一時間半ほどで二、
 三枚の名作をのこしました。常
 緑の針葉樹と、黄や赤の広葉樹の
 対比が、印象深かったです。
 (参加者) 福田勝治 田中順子
 階藤英一 岡本勇郎 岡本あき子
 ○保田 博 ○松田敏男 計7名

山行報告
 新ハイキングクラブ関西

スケッチハイキング2(比良)
 11月1日(日) 曇のち一時雨
 京都駅7・25(集合)7・37発
 比良駅8・15―比良リフト前―リ
 フト駅遊歩道9・05―カラ岳10・
 00(スケッチ、昼食)12・30―リ
 フト駅遊歩道13・10(調音)13・
 30―リフト山頂駅13・50―14・
 30

紅葉が見頃で北山の良さを十分
 味わった。林道が右俣の奥まで延
 びていたので登山道を捜しながら
 のロスタイム。林道から登山道へ
 はガレをロープで登ったり、ヤブ
 漕ぎで突破した。
 (参加者) 野間超夫 松林立美
 橋本広子 平野善明 高田いさお
 塚本忠次 呉比呂美 中井ひろみ
 計9名

鶏冠山・天狗岩
 11月22日(日) 晴れ
 JR草津駅8・50(集合)9・00
 発―上桐生9・30―50―落が滝
 10・20―30―鶏冠山11・20―30―
 天狗岩12・00―白石峠交差点12・
 30(昼食)13・30―磨崖仏14・00
 ―10―南谷林道14・20(A班)林
 道を通り上桐生15・15(B班)林
 道の南尾根を上桐生へ歩いたが尾
 根道を間違え瀬田川橋梁を結ぶ大戸
 川沿いの道へ16・50―桐生バス
 停へ18・00頃合流―JR草津駅
 19・00
 鶏冠山から天狗岩の奇観を楽しむ

多武峰・談山神社
 11月29日(日) 晴れ
 桜井駅9・00(集合)9・30発
 不動滝9・55―談山神社10・30―
 御坂裂山10・55―談山神社11・15
 (昼食)12・15―右舞台古墳13・
 35―14・00―甘樫の丘15・00―15
 計47名

―概原神宮前駅16・00(解散)

ちよつと遅ればせながらの紅葉
 ハイク。冷えたんだ朝とは変わ
 午後からは汗ばむ陽気となった。
 (参加者) 三木民子 吉野啓三
 吉野 房 新治信子 西川圭以子
 大知幸雄 高田栄久 鎌田美佐枝
 前田政雄 林 秀紀 渡辺なよ子
 早石倫大 前田泰孝 米谷よみ子
 前田晃宙 松水めぐみ
 ○前田知康 ○松永忠一 計18名

伊勢山上

12月6日(日) 曇時々晴れ
 近鉄久居駅9・00―伊勢寺―堀坂
 峠―飯田寺10・00(こまで車)
 11・00(昼食)12・05―小尻返し
 飯田寺12・30―柚原―小原―
 合ヶ野―近鉄伊勢中川駅13・30(解
 散)
 天気予報がはずれぬかな冬の
 日。かつての行者場だけあって、
 随所に手頃な岩場があり、小さな
 スリルを楽しんだ。
 ・行者場のぐるっと雑木紅葉かな
 (参加者) 石田敏章 石田真由美
 武本博子 山本雅子 野崎重郎
 大矢知田鶴子 大矢知正浩

○桶垣逸夫 ○新町幸夫 計9名

城丹国境縦横
 12月6日(日) 晴れ
 北大路駅バスターミナル8・00集
 合 8・10(タクシ)祖父谷林
 道9・00―10―ナベクロ峠9・50
 1―鉄塔下10・00―10―飯森山11・
 30(昼食)12・30―大童山13・05
 1―茶谷峠14・00―30―大森中町
 15・10―16・00(丁R貸切バス)
 17・30京都駅(解散)
 予定の枚数ヶ岳はカットとして
 ナベクロ峠から城丹国境に乗っ
 た。プッシュもなく快適な縦走を
 楽しんだ。
 (参加者) 上村 操 前田政雄
 伊藤和夫 塚本忠次 山崎多恵子
 山高義治 布施清美 小島フジ子
 宮坂敏彦 妻藤弘子 西田小百合
 呉比呂美 高岡信男 尾野孝雄
 松林立美 里原弘己 山崎鶴子
 若松 登 新井琴代 藤井敏弘
 前田幸子 平野国三 櫻島康一
 西村義朋 山岸智子 西出 寛
 稲本芳雄 傍田治美 飯田 昇
 井上保三 林 政三 堀崎明子
 ○中西信行 ○村田智俊 計36名

新ハイキングクラブ関西

入会のご案内
 このページの山行例会を通して
 正しい山歩きを、たのしい山仲間
 たちといっしょに味わいませんか。
 リーダー(係)はすべて無償の奉
 仕で、各自で切符を買い茶代を払
 い、宿泊料もすべてワリカンです。
 あなたも新ハイキングクラブ関
 西に入会してのたのしいお仲間にな
 りませんか。会員には毎月「新ハ
 イキング・別冊関西の山(年間6
 号)をお届けします。
 入会金 500円(バツジ代)
 年会費 2500円(送料共)
 新ハイキングクラブ関西への入
 会申し込みはこの雑誌に挿入の振
 替用紙をご利用下さい。第何号か
 ら送本せよとご明示下さい。
 1号〜8号バックナンバー在庫
 あります。ご希望の方は、300
 円以下の切手か、挿入の振替用紙
 で誌代分送金のうえお申し込み下
 さい。定価各4500円(送料は当
 会で負担します)

○新入会者紹介(11月7日まで)
 小堂 学 郡 雅行 郡 田 鶴子
 坂口良彦 坂口恵子 飯田登志子
 前田明成 小西順子 吉田誠也

みなからの縦走コースは眼下の展
 望も開けよかつた。最終尾根コー
 スを逸えたが、日没直前に道に降
 り立ちホツとした。
 (参加者) 大畑幸雄 菅沼喜隆
 飯田 昇 飯田政子 中村恵美子
 中村英雄 高岡信男 井上恵美子
 宮坂敏彦 星野正弘 尾野孝雄
 里原弘己 北林 滋 北林可奈子
 妻藤弘子 呉比呂美 中井ひろみ
 中西 昭 中西和子 小川九三雄
 竹内正三 則定保夫 宇高水次郎
 平野国三 辻 義弘 山盛加奈子
 西崎智雄 原 遊子 吳山繁三
 松林立美 坂本知己 集 とも子
 西村義朋 武田悦子 飯田登志子
 井川慶一 井川陽子 大宮綾枝子
 井上保三 林 政三 弓庭小夜子
 寺元久男 寺元幸子 西津恭子
 ○中西信行 ○村田智俊 ○西出 寛
 計47名

寺元久男 寺元久子 水口紀代子
 藤井敏弘 川西勝久 佐野伸次
 尾野孝雄 前田節子 脇田和洋
 小野 謙 前田道子 大崎雅伸
 藤田満男 藤田敦子 福山基夫
 南 正江 金田國子 押川トミ子
 藤原栄寿 大西一之 田村隆文
 北崎 孝 荒井佐吉 土肥 尚
 東福健治 岩田達雄 平田桂一
 山崎信雄 永岡昇司 永岡暢子
 友田健一 森田真一 西条ユウ子
 友田 仁 川満敏一 山口 求
 山口美紀 堀崎明子 寺西邦夫
 林 勝幸 福垣忠和 泉元二
 服部善造 服部順子 吉原 務
 船谷武道 小田 孝 佐々木芽子
 箱田孝光 阪下幸一 佐藤壮征
 松本 融 峠下澄子 八木八重子
 井上博美 井上智子 中野 弘
 西田一夫 田端昭彦 井上睦也
 田中典郎 杉山政敏 馬場平三郎
 仲秋一郎 仲秋豊子 片岡義男
 松本 悟 近藤 孟 上山定男
 今津省司 野口 博 上山のり子
 深谷正実 武市順子 宮崎光治
 尾本芳子 春田芳伸 川那辺次郎
 河口隆彦 河口幸子 池田昭男
 志方秀藏 谷角マサ子